

## 二〇一三年全国調査と二〇〇三年全国調査からみた 社会関係資本の年齢階層別変化

稲葉陽 二

はじめに

筆者は二〇一三年一〇月中旬から一月初旬にかけて、郵送法により『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』を実施した。本調査は信頼、規範、ネットワークなどの社会関係資本を調査対象としている。全国二一大都市、その他の市、町村から一〇〇地点を無作為抽出し、二〇歳から七九歳までの住民を母集団として、各地点の住民基本台帳から無作為に各地点

一〇〇人計一人を抽出して調査票を郵送し、三五七五票の有効回答（回答率三五・八％）を得た。その概要はすでに稲葉（二〇一四）で、二〇一〇年に同内容の質問票により筆者が全国を対象に実施したアンケート調査（N＝一五九九）および二〇〇三年内閣府が実施した全国郵送法調査（N＝一八七八）との比較を含め、まとめている。本研究ノートは、この稲葉（二〇一四）の考察を踏まえ、二〇歳代から七〇歳代までの六つの年齢階層別に調査項目ごとにクロス集計表を作成し、年齢階層別の基

礎データから読み取れる傾向をまとめたものである。なお、二〇一三年調査では、二〇歳代から四〇歳代までは女性の比率がほぼ六割に達しており、この年齢階層の母集団推計には不適である。また、二〇歳代は標本数が三〇一と十分ではない。したがって、本稿における二〇一三年調査の二〇歳代から四〇歳代までの年齢階層別のデータ、特に二〇歳代の値は参考値にとどまる。加えて、経年比較に用いた二〇〇三年内閣府調査と二〇一〇年調査はサンプル数が二〇一三年調査より少なく、六階層に分けると、いずれの階層も母集団推計には標本数が足りない。したがって、二〇〇三年から二〇一〇年を経て二〇一三年までの一〇年間の年齢階層別経年変化も参考値にとどまる。なお、二〇〇三年内閣府調査は、内閣府国民生活局から個票データの提供を得た。記して謝意を表する。

## 一・二〇一三年全国郵送法調査の概要

### （二）調査目的と設問

#### 〔目的〕

外部性を伴う信頼・規範・ネットワークである社会関係資本を、一般的信頼、特定化信頼、ネットワーク（つきあい・社会参加）の観点から明らかにする。あわせて、社会関係資本と健康（主観的健康、生活での積極性<sup>①</sup>抑うつ度<sup>②</sup>）との関連を検証する。社会関係資本には一般的信頼など認知的なものと、社会交流・社会参加の側面からみたネットワークなどの構造的なものに分かれるが、本調査は双方を調査対象としている<sup>③</sup>。

#### 〔調査内容・設問〕

二〇一三年調査は次のような構成となっている。

問一 一般的信頼（九段階回答）

特定化互酬性（三段階回答）

一般的互酬性（三段階回答）

問二 近所づきあいの程度と人数（四段階回答）

友人・知人、親戚、同僚とのつきあいの頻度（五

段階回答)

### 問三 地域での活動状況

地縁的な活動への参加 (七段階回答)

スポーツ・趣味・娯楽活動への参加 (七段階回答)

ボランティア・NPO・市民活動への参加 (七段階回答)

階回答)

その他の団体活動への参加 (七段階回答)

最も頻繁に参加している活動とその特性

### 問四 生活の状況

主観的生活満足度 (五段階回答)

日常生活での心配事 (一七項目、五段階回答)

特定化信頼 (一一対象、五段階回答)

主観的健康感 (四段階回答)

抑うつ度 (K6、六項目、五段階回答)

成人期以後の学習 (三項目、五段階回答)

日常生活生活における対処 (九項目、五段階回答)

### 問五 寄付・募金活動について

寄付の対象と金額

### 問六 不正への許容度 (四項目、一〇段階回答)

### 問七 回答者の属性

性別、年齢、職業、居住形態、居住年数、同居人の有無と人数、最終学歴、年間世帯収入

本調査の設問は基本的に、二〇〇三年に内閣府国民生活局が株式会社日本総合研究所へ委託して実施したソーシャル・キャピタル調査研究会 (委員長 山内直人大阪大学教授) アンケート調査に準拠しているが、その後多くの改訂を行っている。二〇一三年調査の内容・形式については、日本大学医学部倫理委員会の審査を受審し、承認を得ている。<sup>(4)</sup>

#### (二) 調査・実施主体

日本大学法学部 稲葉陽二研究室

アンケートの実施は一般社団法人中央調査社に委託

#### (三) 調査関連期間

調査票の検討 二〇一三年四月～六月

調査の倫理面からの審査 二〇一三年六月二〇日～七月

月二三日

調査実施期間 二〇一三年一〇月一〇日～十一月八日

(四) 母集団と調査対象者、対象者のサンプリング方法  
〔母集団〕 全国の一〇歳から七九歳の居住者

〔対象者〕 全国一〇〇地点における居住者一〇〇〇〇名

〔サンプリング方法〕 全国一〇〇地点を無作為抽出し、さらにそれぞれの地点の住民基本台帳から二〇歳から七九歳の居住者一〇〇〇人を無作為抽出

〔調査方法〕 郵送法 (配付・回収とも)

(五) 調査配票数・回収数・回収率

〔配票数〕 一〇〇〇〇票

〔回収数〕 三五七五票 (無効票なし)

〔有効回収数〕 三五・七五% (三五七五票/一〇〇〇〇票)

(六) 調査実施メンバー

研究代表者 稲葉陽二、研究協力者 緒方淳子、調査実施と回答の入力は一般社団法人中央調査社に委託

(七) 記述統計量と回答者の属性

## 二・集計値でみた調査結果の概要と 本稿の対象

表2は集計値からみた本調査の結果を示しており、二〇一三年調査以外に内閣府国民生活局が実施した二〇〇三年全国郵送法調査<sup>6)</sup>と、筆者が実施した二〇一〇年全国郵送法調査の二つの全国調査の集計値との比較を加えている。結果の概要についてはすでに稲葉(二〇一四)で述べたとおりであり、次のようにまとめている。

「本稿では、二〇一三年に実施した社会関係資本全国調査の概要を紹介し、あわせて二〇〇三年調査、二〇一〇年調査との比較をした。過去の調査の比較では、二〇〇三年から二〇一三年の一〇年間で、認知的な社会関係資本である一般的信頼は安定し、構造的な社会関係資本でも地縁活動と趣味・スポーツ・娯楽活動への参加率は大幅に上昇したが、毎日の生活の中で接する隣人、友人・知人、職場の同僚、家族、親戚などとの実質的なつきあいは大幅に減り、認知的な社会関係資本でもこれら日常で接する組織や人々に対する特定化信頼は大幅に毀損したことを示唆する結果となっている。

しかもこの傾向は、二〇一〇年から二〇一三年の三年

表1 2013年調査記述統計・回答者の属性

		N	平均・構成比 (%)	標準偏差 ほか	範囲
性別	男性	1628	45.5		
	女性	1947	54.5		
年齢		3575	53.5歳	15.8	20-79
職業	自営業	341	9.5		
	経営者	87	2.4		
	民間・団体勤め人 (正規社員)	820	22.9	最頻値	
	民間・団体勤め人 (契約・派遣社員)	195	5.5		
	公務員・教員	168	4.7		
	臨時・パート勤め人	536	15		
	学生	61	1.7		
	無職	588	16.4		
	専業主婦・主夫	594	16.6		
居住形態	持ち家	2747	76.8		
	借家	721	20.2		
居住年数		3484	25.5年		0-79
同居人数	単身	346	9.7		
	同居人あり	3155	88.3		
最終学歴	小中学校	375	10.5		
	高等学校	1438	40.2	中位値・最頻値	
	専修学校ほか	407	11.4		
	高専・短大	383	10.7		
	大学	844	23.6		
	大学院	81	2.3		
世帯年収	200万円未満	354	9.9		
	200～400万円未満	1051	29.4	最頻値	
	400～600万円未満	816	22.8	中位値	
	600～800万円未満	497	13.9		
	800～1,000万円未満	329	9.2		
	1,000～1,200万円未満	147	4.1		
	1,200万円以上	145	4.1		

間でもみられ、二〇一〇年から二〇一三年のわずか三年の間に、一般的信頼を除いたネットワークを主体とする構造的な社会関係資本と、認知的ではあるが構造的な社会関係資本の影響を受けやすい特定化信頼が大きく変化している。二〇一〇年と二〇一三年の間の社会経済環境における大きな変化は、東日本大震災をはじめとする天災の激化であるが、一般的には、東日本大震災は人々の間に絆の重要性を再認識させたと評価されており、絆を社会関係資本と解釈すれば、この三年間でむしろ社会関係資本の指標は強化される方向への変化が期待されていたが、集計値でみる限り本調査の結果はまったく反対の変化を示唆している。

二〇〇三年から二〇一三年の間の変化は、性別、年齢階層別、年間世帯収入別でみた場合、基本的にすべての階層で有意な差がみられるので、性別、高齢化、収入の影響によるものとはいいがたい。しかし、職業別にみた場合は、有意に差がみられる職種と、そうでない職種に二分されることから、二〇〇三年調査と二〇一三年調査との比較でみられた社会関係資本の変化は、基本的にこの間の雇用環境と労働市場の変化を反映しているものといえる。」(稲葉二〇一四、二五―二六頁。)

本稿では、稲葉(二〇一四)の考察を踏まえ、年齢階

層別に調査項目についてクロス集計表を作成し、年齢階層別の基礎データから読み取れる傾向を研究ノートとしてまとめたものである。年齢階層は、二〇歳から二九歳(N=三〇二)、三〇歳から三九歳(N=五二六)、四〇歳から四九歳(N=六〇二)、五〇歳から五九歳(N=六〇五)、六〇歳から六九歳(N=八〇三)、七〇歳から七九歳(N=六二〇)の六階層別としている。また、二〇一三年調査における回答者の年齢階層別の属性は表3にまとめてある。社会関係資本、特に構造的な社会関係資本については、性差が大きいことが知られているが、表3に示すように、二〇歳代から四〇歳代までは女性の比率がほぼ六割に達しており、この年齢階層の母集団推計には不適である。また、二〇歳代は標本数も三〇一と十分ではないしたがって、本稿における二〇歳代から四〇歳代までの年齢階層別のデータ、特に二〇歳代の値は参考値にとどまる。



表2 調査結果 (集計値) の概要

(%)

類型	一般的信頼				特定化信頼			
	一般的な信頼 ほとんど信頼できる	旅先での信頼 ほとんど信頼できる	近所の人々への信頼	家族への信頼	親戚への信頼	友人・知人への信頼	職場の同僚への信頼	
設問	3,575	26.9	22.0	31.9	84.1	58.2	60.4	28.8
サンプル数	1,599	27.9	21.3	40.5	89.1	66.7	69.7	36.5
	1,878	24.8	18.9	43.1	90.1	63.8	73.7	42.9
2010から2013への変化		-1.0	0.7	-8.6	-5.0	-8.5	-9.3	-7.7
2003から2013への変化		2.1	3.1	-11.2	-6.0	-5.6	-13.3	-14.1

(%)

類型	ネットワーク つきあい				ネットワーク 団体参加			
	近所つきあいの程度 生活面で協力・立話	近所つきあいの人数 かなり多い・ある程度と面識	友人・知人とのつきあい頻度 日常的・ある程度頻繁	親戚とのつきあい頻度 日常的・ある程度頻繁	職場の同僚とのつきあい頻度 日常的・ある程度頻繁	地縁活動 参加している	スポーツ・趣味・娯楽活動 参加している	ボランティア・NPO・市民活動 参加している
全国調査 (2013年)	59.0	56.8	45.2	32.9	17.2	50.7	55.8	30.1
全国調査 (2010年)	60.4	59.5	49.2	38.0	22.1	51.8	52.0	32.1
全国調査 (2003年)	70.1	67.7	57.7	37.1	25.4	35.5	30.9	16.8
2010から2013への変化	-1.4	-2.7	-4.0	-5.1	-4.9	-1.1	3.8	-2.0
2003から2013への変化	-11.1	-10.9	-12.5	-4.2	-8.2	15.2	24.9	13.3

表3 年齢階層別回答者属性 (%)

属性		年齢 (サンプル数)	30歳未満 (301)	30-39 (516)	40-49 (601)	50-59 (605)	60-69 (803)	70歳以上 (620)
性別	男		40.9	39.8	41.3	45.5	49.9	50.8
	女		59.1	60.2	58.7	54.5	50.1	49.2
職業	自営業		2.1	7.8	9.7	10.0	18.4	17.1
	経営者・役員		0.0	1.7	3.1	3.1	6.1	1.7
	民間勤め人 (正規雇用)		45.8	48.7	40.4	36.1	9.0	1.7
	民間勤め人 (非正規雇用)		6.3	6.9	8.5	8.6	8.0	1.1
	公務員・教員		4.9	7.3	7.4	12.0	1.9	1.1
	パート等		11.1	21.5	24.8	22.8	20.6	5.2
	学生		20.5	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
	無職		6.9	4.7	3.7	4.9	31.7	65.6
居住形態	持家 (1戸建)		42.6	50.3	55.3	68.5	77.3	79.2
	持家 (集合住宅)		13.2	13.1	18.4	15.4	11.6	9.2
	民間借家		27.7	25.4	16.5	8.3	5.2	4.1
	社宅等		2.6	4.2	2.9	1.1	0.4	0.0
	公営借家		7.7	4.6	4.4	5.2	4.1	6.5
	借間		3.9	1.3	1.1	0.3	0.2	0.3
	住み込み		1.6	0.2	0.0	0.3	0.4	0.0
住み続けたいか	住み続けたい		42.8	55.6	56.8	57.6	72.1	78.7
	どちらでもよい		38.3	33.2	33.7	33.1	18.5	15.2
	引っ越したい		16.6	8.7	8.3	6.7	5.1	1.8
同居人の有無	あり		82.8	92.3	94.3	93.1	88.7	86.7
	一人暮らし		17.2	7.7	5.7	6.9	11.3	13.3
最終学歴	小・中学校		3.5	2.3	1.9	3.8	13.2	32.0
	高等学校		27.7	26.4	40.1	40.9	50.5	45.2
	専門学校等		12.9	17.1	14.2	12.1	8.6	6.5
	高専・短大		10.3	16.3	15.8	12.6	7.3	4.3
	大学		40.8	31.2	25.0	27.5	19.0	10.7
	大学院		4.2	5.3	2.4	2.2	1.0	0.5
世帯収入	200万円未満		9.1	5.7	6.3	5.5	13.2	21.0
	200～400万円未満		32.3	23.1	19.8	19.2	41.8	47.9
	400～600万円未満		21.7	36.2	26.9	22.7	23.8	16.4
	600～800万円未満		14.6	16.6	23.0	20.5	9.7	7.1
	800～1,000万円未満		9.8	12.3	13.7	15.2	5.5	4.6
	1,000～1,200万円未満		5.1	3.5	6.1	9.3	2.0	1.5
	1,200万円以上		7.5	2.7	4.4	7.7	4.0	1.5



### 三・年齢階層別にみた二〇一三年調査

#### 三―一 年齢階層別属性

表3は年齢階層別の属性を示している。すでに指摘したように、二〇歳代から四〇歳代までは女性の比率がほぼ六割に達しており、この年齢階層についてはバイアスがある。また、職業は若年層から五〇歳代の壮年層までは「民間勤め人（正規雇用）」が最も多い。持家比率は二〇歳代でも五六%に達しており、七〇歳代では九割近くと全般に高い。世帯収入も中位数は二〇歳代から四〇歳代まで四〇〇万円～六〇〇万円未満であり五〇歳代で六〇〇万円～八〇〇万円未満に上がり、その後六〇歳代で四〇〇万円～六〇〇万円未満に戻り、七〇歳代で二〇〇万円～四〇〇万円未満となっている。最終学齢で最頻値は、二〇歳代と三〇歳代が大学であるが、四〇歳代以降は高等学校が最頻値となる。回答者の六〇歳代で九人に一人、七〇歳代で七・五人に一人が一人暮らしである。

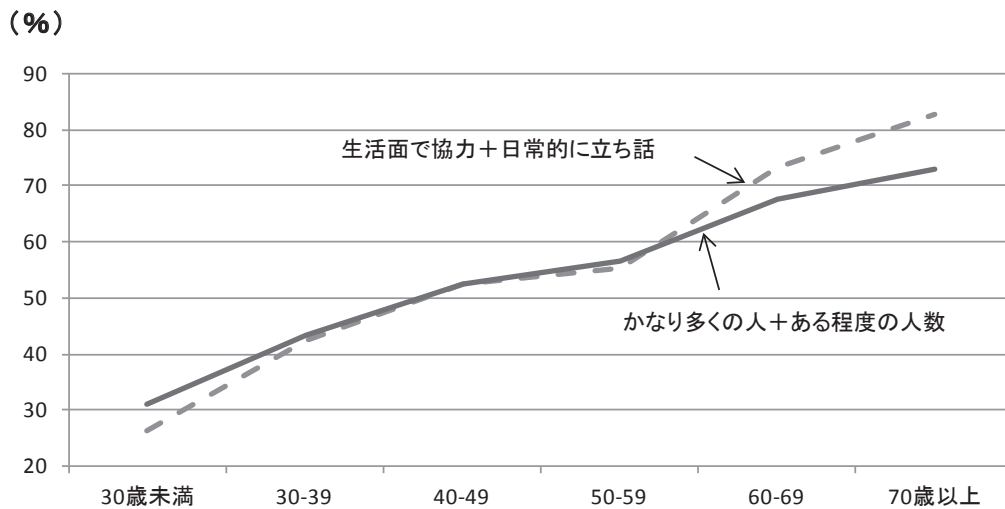
#### 三―二 年齢階層別社会関係資本

ネットワークや団体参加などの構造的な社会関係資本については、総じていえば、年齢階層が上がるほどつきあいや団体参加の頻度が上がる。その一方で、信頼や互酬性などの認知的な社会関係資本については、年齢階層が上がれば上がるほど高水準になるわけではない。むしろ、社会全体へ対する一般的信頼は壮年期がピークで、六〇歳代以降は低下傾向がみられる。また、特定化信頼は、同僚や友人・知人への信頼は年齢が上がると低下する。同様に互酬性は、若年層のほうが壮年層、高齢層よりも高い。

#### 構造的な社会関係資本

本調査では構造的な社会関係資本として、「近所づきあいの程度」、「近所づきあいの頻度」、「友人・知人とのつきあいの頻度」、「親戚・親類とのつきあいの頻度」、「同僚とのつきあいの頻度」、「地縁的な活動の参加率」、「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」、「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」、「その他団体活動への参加率」の九つの設問を設けている。このうち「近所づき

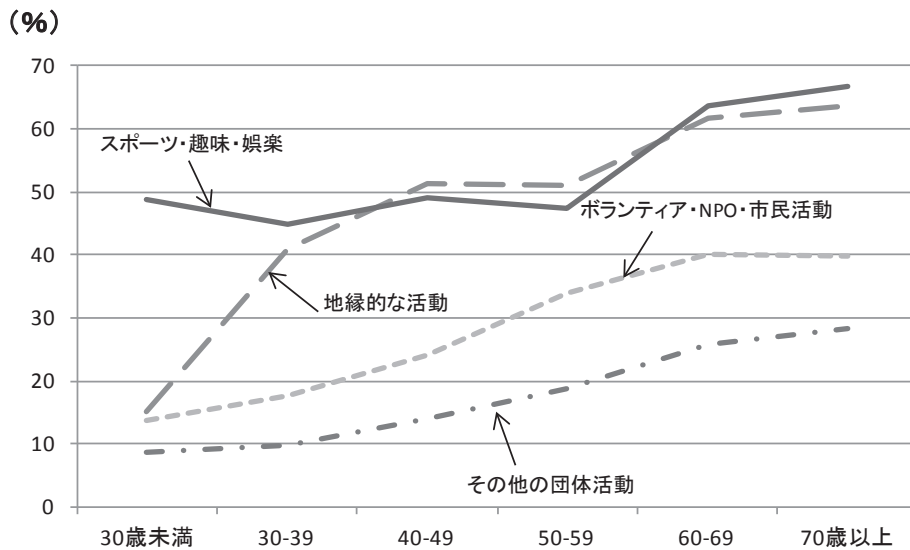
図1 年齢階層別 近所づきあい



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

あいの程度」「近所づきあいの頻度」は図1に示されるように、年齢階層が上がるほど、上昇する。これは居住年数が長くなれば、近所づきあいもそれに比して長期となるので十分予想されるものである。また、団体参加率も、図2に示されるように、高齢になるほど、参加率が上昇する。四つのタイプの活動、いずれについても、現役から退く六〇歳代で参加率が大きく上昇する。四つのタイプの活動のうち、「地縁的な活動」は二〇歳代では一五%であるのに対し、四〇歳代で五〇%を超え、六〇歳代になると六〇%を超え、壮年層と高齢者層に支えられているという実態がわかる。同様の傾向は「ボランティア・NPO・市民活動」「その他の団体活動」についてもみられるが、年齢階層間の差は「地縁的活動」より小さい。ただし、「スポーツ・趣味・娯楽活動」は二〇歳代から五〇%近くの参加率があり、それが五〇歳代まで継続され、世代間の差が他の三つの活動と比して小さい。世代間の社会関係資本の醸成には、「地縁的な活動」より「スポーツ・趣味・娯楽活動」を活用したほうがよいのかもしれない。ただし、構造的な社会関係資本のなかでも、年齢階層が上昇しても上がらないものもある

図2 年齢階層別 団体参加率



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

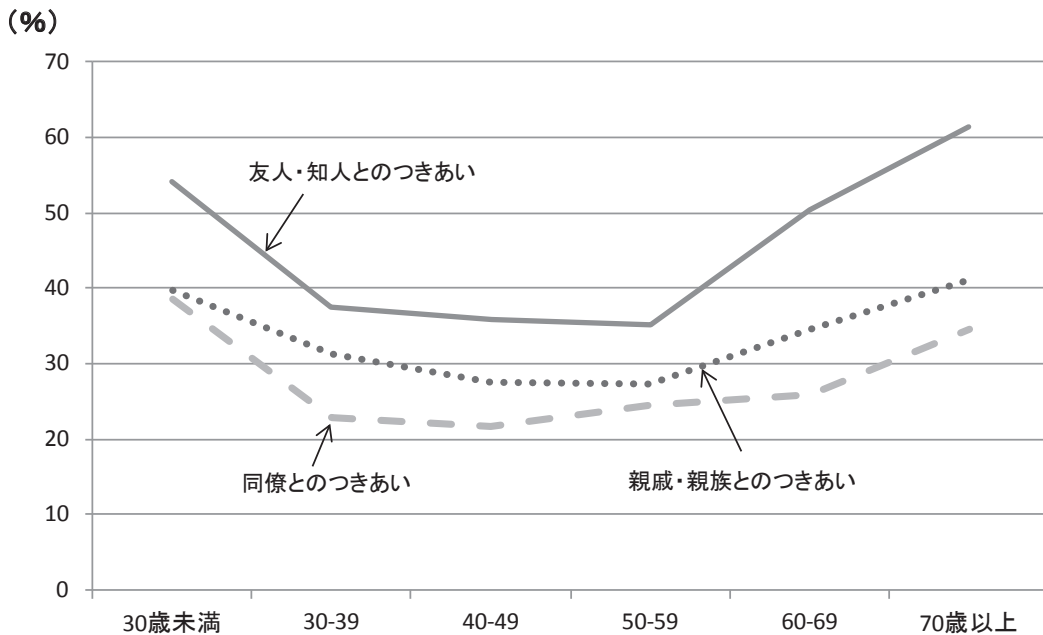
る。具体的には、図3に示されるように、「友人・知人とのつきあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「同僚とのつきあいの頻度」は二〇歳代が高く、三〇歳代で大幅に低下し、五〇歳代まで低水準で底這いし、六〇歳代から七〇歳代にかけて上昇するU字型となっている。これは壮年期に入りにしたがって職場や子育て、教育などによって友人・知人、親戚、同僚と疎遠になるということであろうか。

#### 認知的社会関係資本

本調査では認知的社会関係資本として、「一般的信頼」「特定化信頼」「一般的互酬性」「特定化互酬性」を尋ねているが、「特定化信頼」は組織に対する信頼(「学校・病院等の公的機関等」「警察や交番等」「市役所・町村役場等」「自治会等の地縁団体」「ボランティア・NPO・市民活動団体」「勤務先」と人に対する信頼(「友人・知人」「近所の人々」「家族」「親戚」「同僚」)に分け、より詳細に調べている。

図4に示されるように、「一般的信頼」(「ほとんどの人は信頼できる」)は二〇歳代では二〇%と低いが、五〇歳代で三〇%を超え、六〇歳代で横ばい、七〇歳代で微減

図3 年齢階層別 つきあい (友人・知人、親戚・親類、同僚)



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

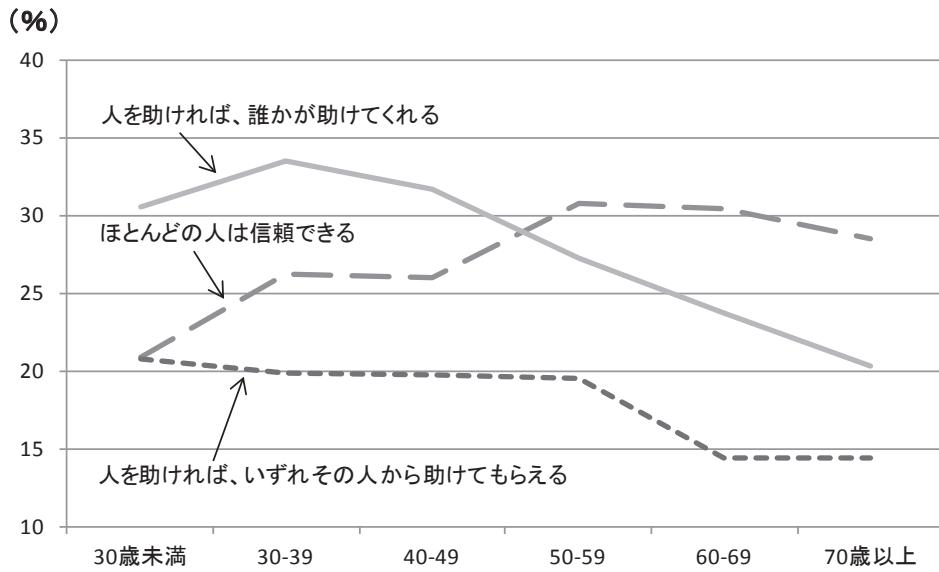
する。また、組織に対する「特定化信頼」(図5)も「勤務先」に対する信頼を除き、総じて年齢階層が上がるにつれ上昇する。ただし、人に対する「特定化信頼」(図6)では「友人・知人」「同僚」への信頼は年齢階層が上がるにつれて低下する。また、一般的互酬性と特定化互酬性(図4)も若年層のほうが壮年層、高齢者層よりも高く、人生での経験を積むにしたがい互酬性は毀損していくようにみえ、一般的信頼とは対照的である。

### 三―三 年齢階層別にみたQOL

生活満足度と生活上の孤立への懸念

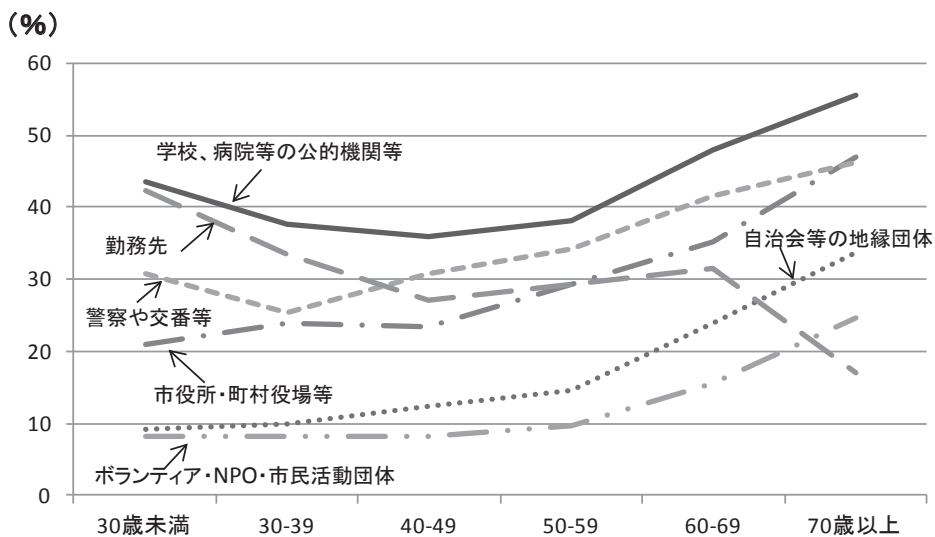
「生活に満足」の比率(図7)はどの年齢階層でも五割を超え、年齢階層別には大きな差はみられないが、四〇歳代、五〇歳代が五割と最も低く、六〇歳代で上昇し、七〇歳代では六割を越える。生活満足度が年齢階層にかかわらず高水準であるが、「孤立への懸念」も各年齢階層で三割前後と比較的高く、六〇歳代で二五%程度へ低下するが、七〇歳代で再び三割が「孤立への懸念」があるとしている。同様の傾向は「家庭内の人間関係」「近隣での人間関係」でもみられ、前者は二割前後、後

図4 年齢階層別一般的信頼と互酬性



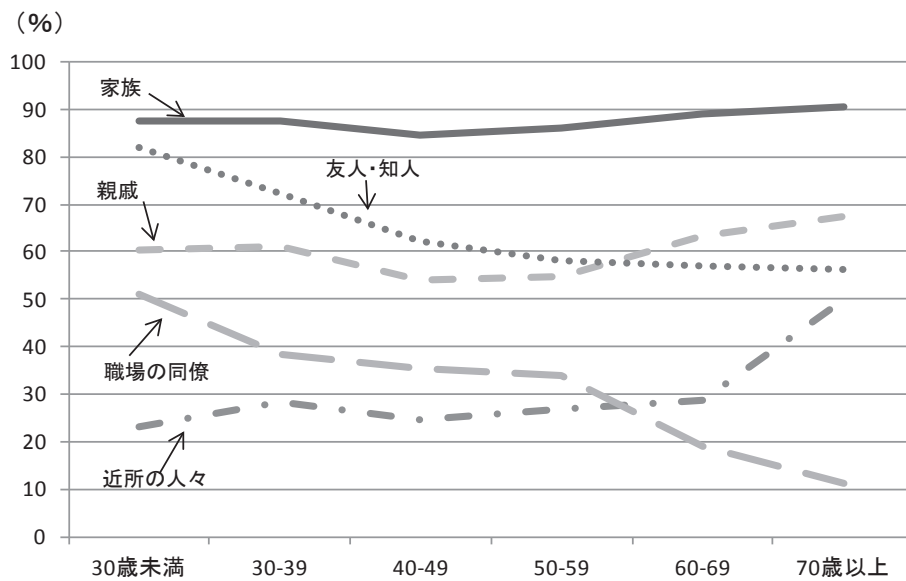
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図5 年齢階層別特定化信頼—対組織



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図6 年齢階層別 特定化信頼—対人



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

者一割前後の水準で、全年齢階層共通の問題・心配事となっている。孤立を含めた人間関係への懸念は全年齢階層共通であり、人生を通じて変わらない悩みの種なのかもしれない。

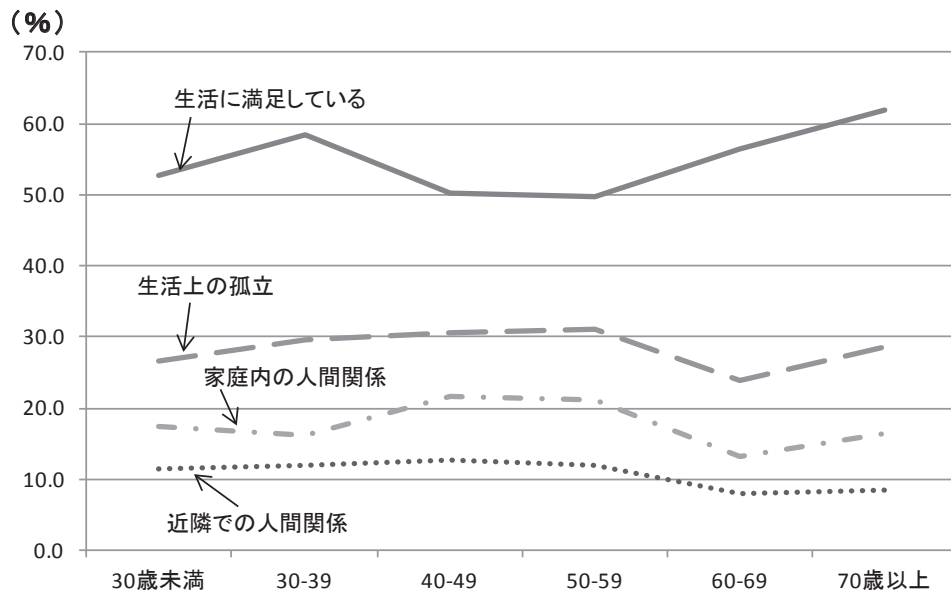
#### 社会への寛容性・不正への許容度

本調査では回答者の社会への寛容性の指標として「各種募金」「まちづくり・環境保全・安全な生活・国際協力のための活動」「宗教団体」「国や地方団体」「その他団体」への寄付について尋ねている。年齢階層別に寄付(金銭+現物)した者の比率(図8)をみると、「各種募金」への参加率が最も高い。「各種募金」に次いで「まちづくり・環境保全・安全な生活・国際協力のための活動」への寄付の参加率が高く、表にはないが「各種募金」や他の寄付と比べて現物の比率が比較的高いのが特徴的である。どの分類の寄付でも、年齢階層が上がれば上がるほど、寄付への参加率が高まる。

寄付に加えて、「公共交通機関の料金をごまかす」「賄賂」「脱税」「無資格での年金や医療給付の請求」の四つの不正について許容度(「認められない」の比率)を尋ね



図7 生活満足度と世代間共通の問題・心配事



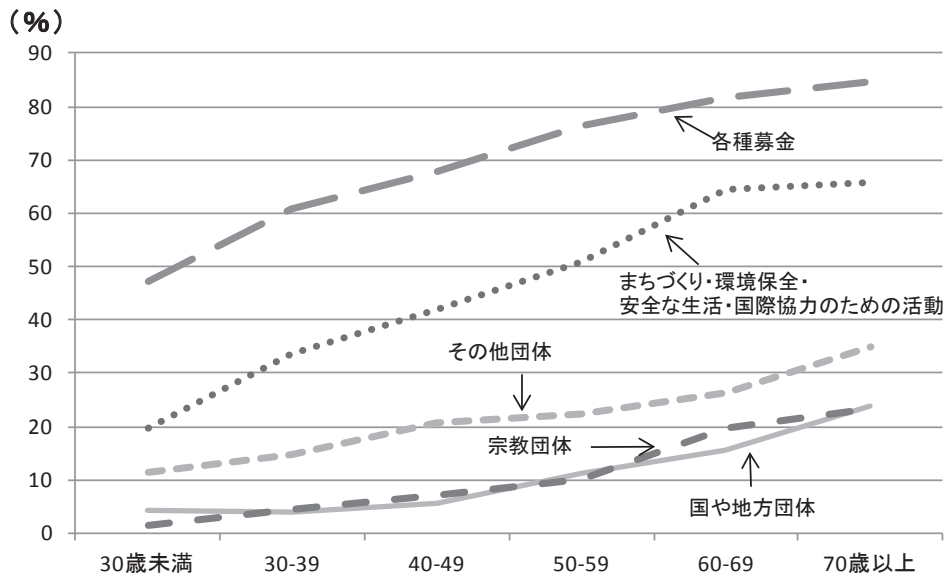
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

ている(図9)。脱税への許容度が一番低く(「認められない」とする比率が高い)、「年金・医療給付の不正受給」への許容度が一番高い。四つの不正、いずれに対しても、年齢階級が上がるほど不正を認めないとする比率が高まるが、「脱税」「公共交通料金」については「認められない」とする比率が七〇歳代では若干低下する。また、「年金・医療給付の不正受給」については若年層の許容度が特に高く、二〇歳代では「認められない」とする比率は五六%にすぎず、年金・医療給付に関するモラル低下が顕著である。

#### 身体と心の健康

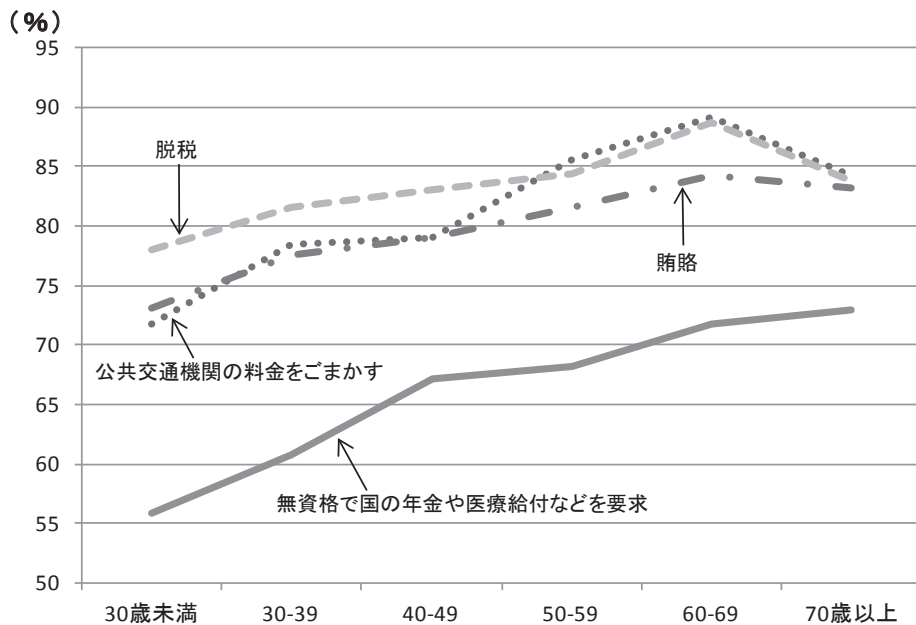
二〇一三年調査は身体の健康の指標として「主観的健康感 (Self-Rated Health, SRHと略) と心の健康の指標として「K6値(〇～二四)」を尋ねている。K6値は抑うつ度が高くなるほど高くなる。図10は両者をまとめて表示しているが、K6値は各年齢階層の平均値を示し、SRHは「あまり健康ではない」と「健康ではない」との合計の比率を示している。心の健康を表すK6は二〇歳代が一番高く、その後六〇歳代まで年齢を重ねること

図8 年齢階層別 寄付率（金銭 + 現物）



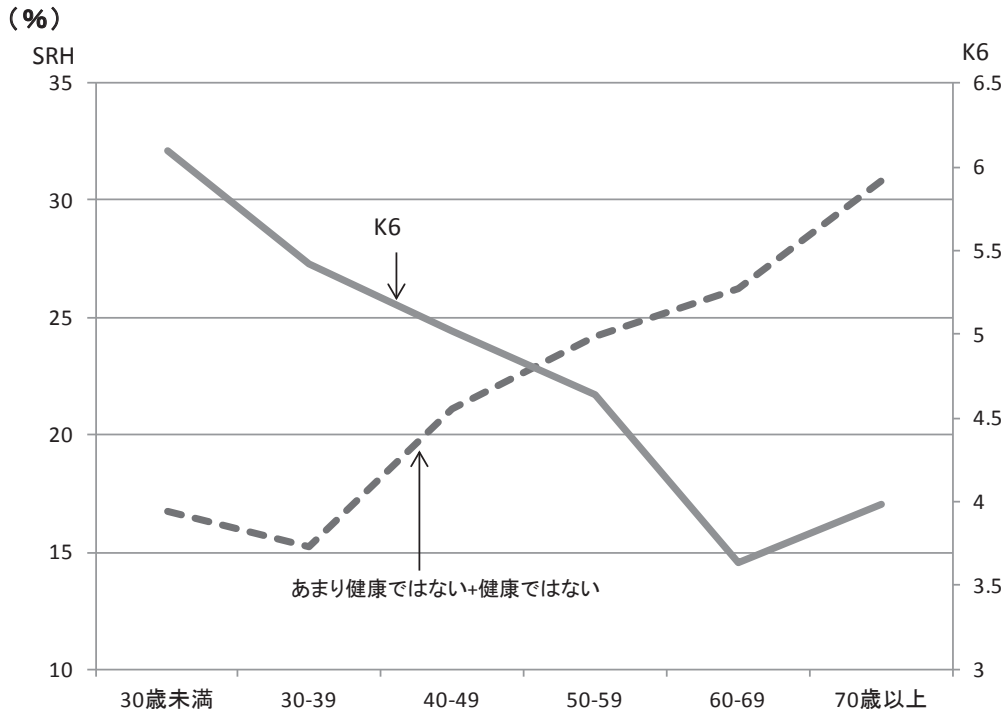
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図9 年齢階層別 不正許容度（「認められない」の比率）



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

図10 年齢階層別 主観的健康感 (SRH) と心の健康 (K6値)



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査」より筆者作成

に低下しているが、身体を健康を表す主観的健康感には三〇歳代を底にその後年齢階層が上がるごとに一貫して上昇しており、七〇歳代ではほぼ三人に一人が健康ではない状態となっている。心の健康は年齢と順相関で年をとると改善するが、身体は年齢と逆相関で年をとると悪化する。身体は健康と年齢の関係は当然であるが、心の健康と年齢の順相関は、若年層を囲む環境がいかにかに過酷であるかを示唆しているようにも解釈できよう。

### 三―四 年齢階層別にみた性差

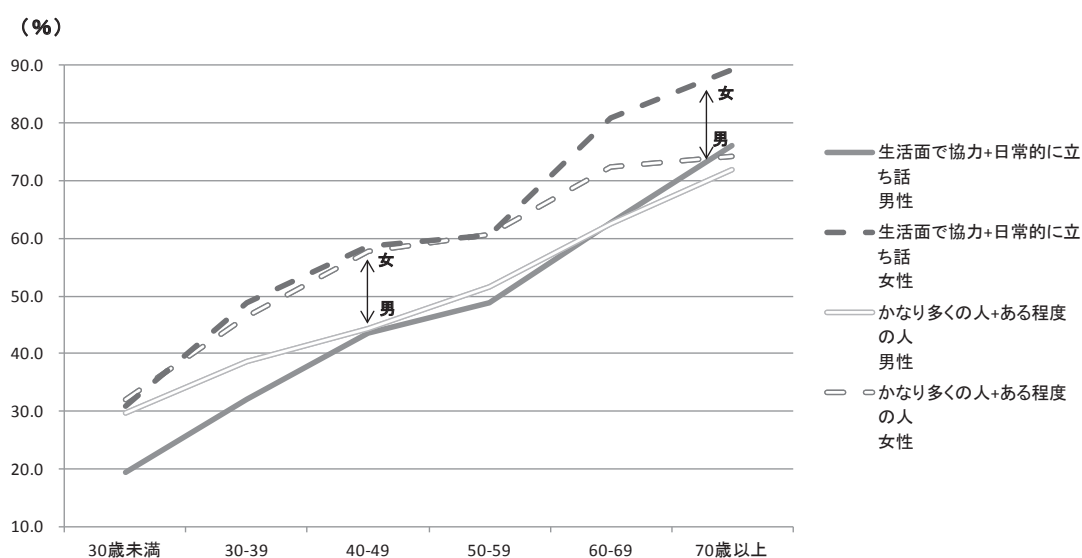
社会関係資本には性差が大きいという点が先行研究で明らかになっているが、本調査でも顕著にみられ、年齢階層別でも男女間で大きな違いがみられる。構造的な社会関係資本は、身近な人々とのつきあいは女性の方が密であるが、団体参加率は男性のほうが高い。一方、認知的社会関係資本の性差はより複雑である。

### 構造的な社会関係資本

本調査では構造的な社会関係資本として、「近所づきあいの程度」、「近所づきあいの頻度」、「友人・知人とのつ

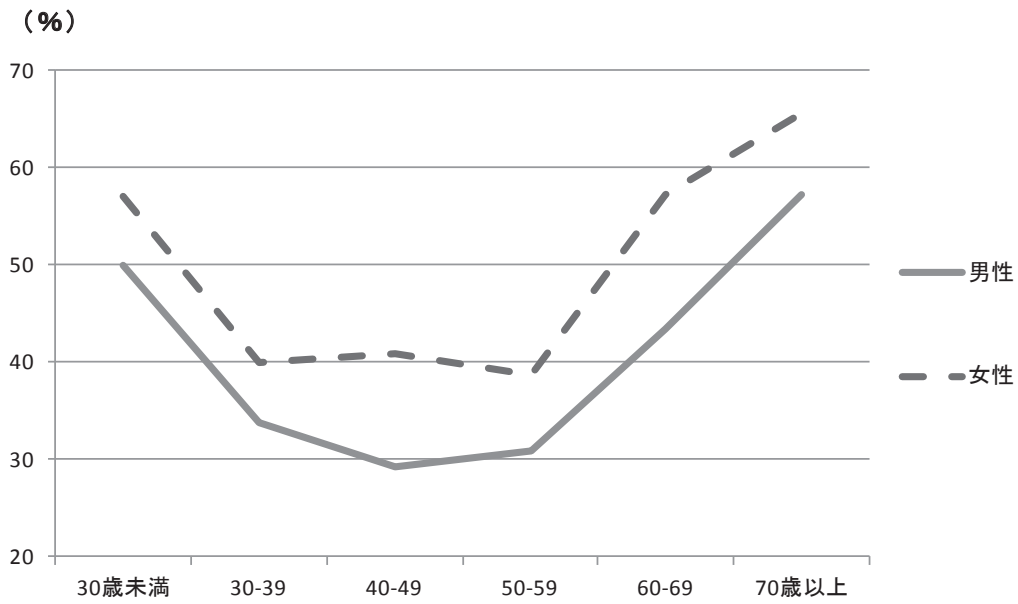
きあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「同僚とのつきあいの頻度」「地縁的な活動の参加率」「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」「その他団体活動への参加率」の九つの設問を設けている。このうち「近所づきあいの程度」「近所づきあいの頻度」「友人・知人とのつきあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」は、図11から図13に示されるように、一貫して女性の方が高い。ただし、「同僚とのつきあいの頻度」（図14）は男性の方が高い。また、図15に示されるように、団体参加率は「地縁的な活動」が女性の参加率が三〇歳代で四割を超え、四〇歳代で男女ともに五割に達するが、三〇歳代の女性がいわば実働部隊として地縁的活動を支えているようにみえる。「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」（図16）では四〇歳代までは男女差は大きくないが、五〇歳代で女性が男性を上回り、六〇歳以降では逆に男性の参加率が上回る。また、「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」（図17）、「その他団体活動への参加率」（図18）はほぼ一環して男性の方が女性より高い。

図11 年齢階層別 近所づきあい



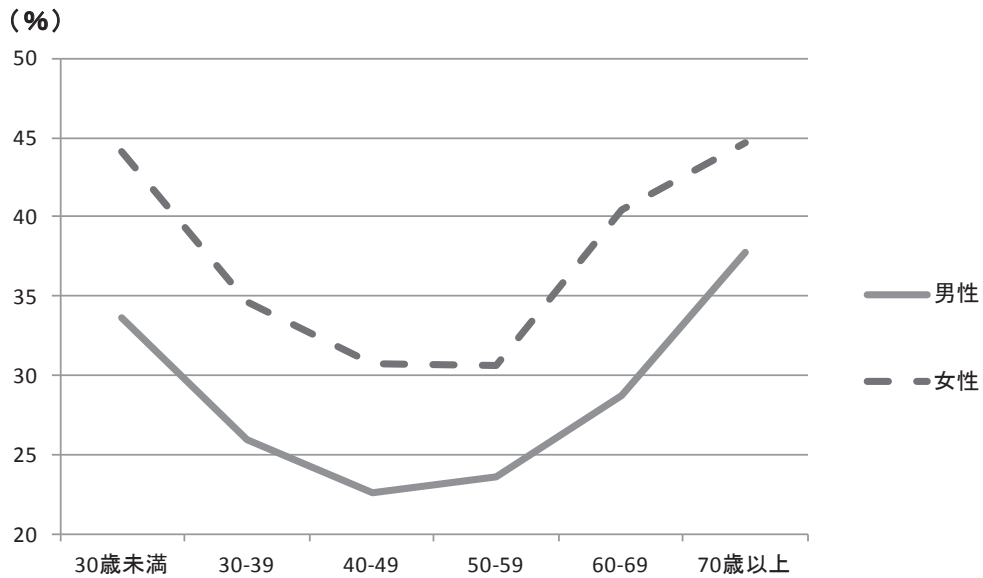
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図12 年齢階層別 つきあい（友人・知人）



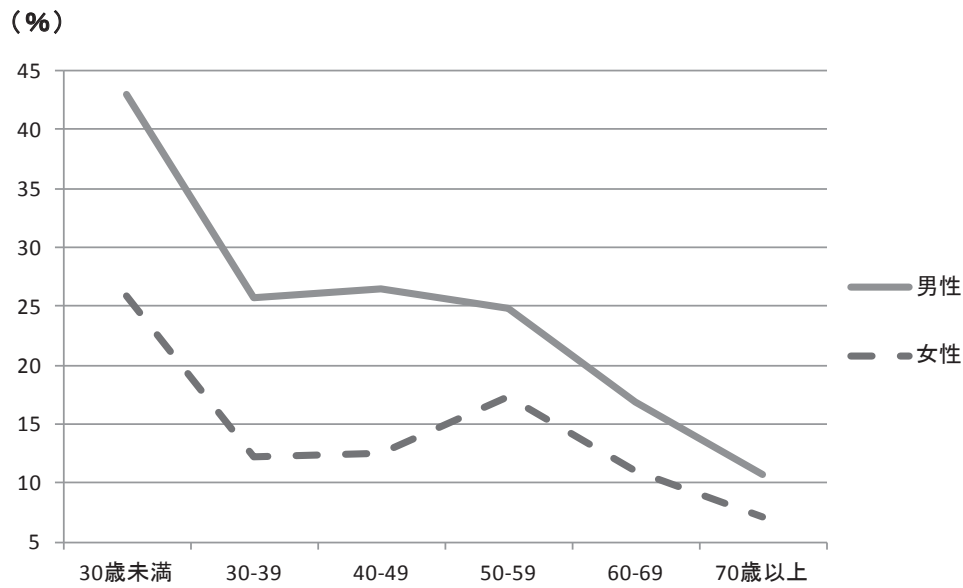
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図13 年齢階層別 つきあい（親戚・親類）



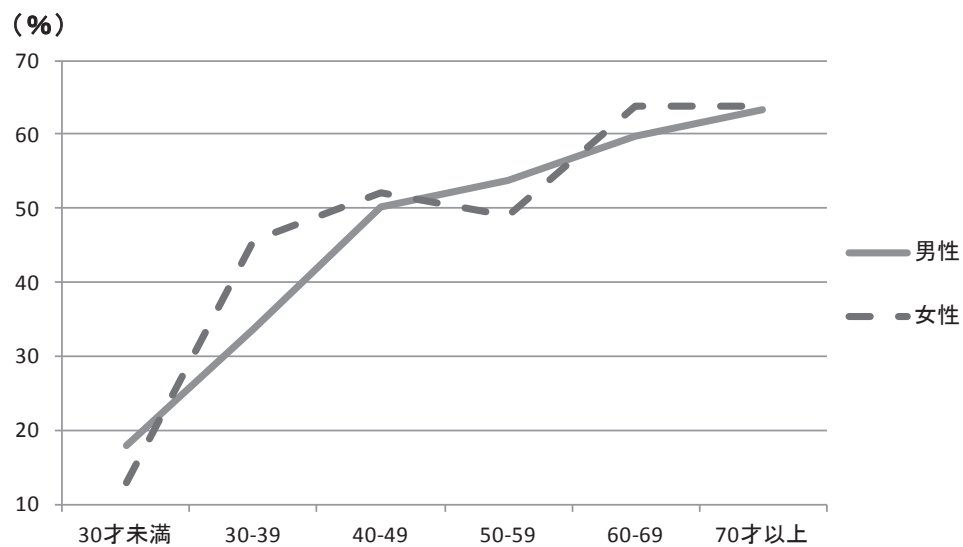
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図14 年齢階層別 つきあい (同僚)



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

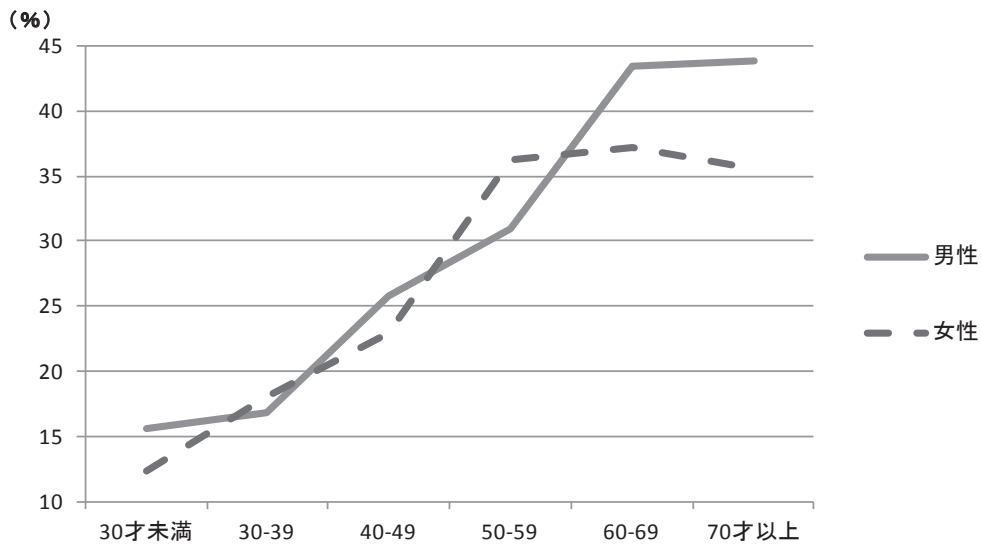
図15 年齢階層別 団体参加率 (地縁的な活動)



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

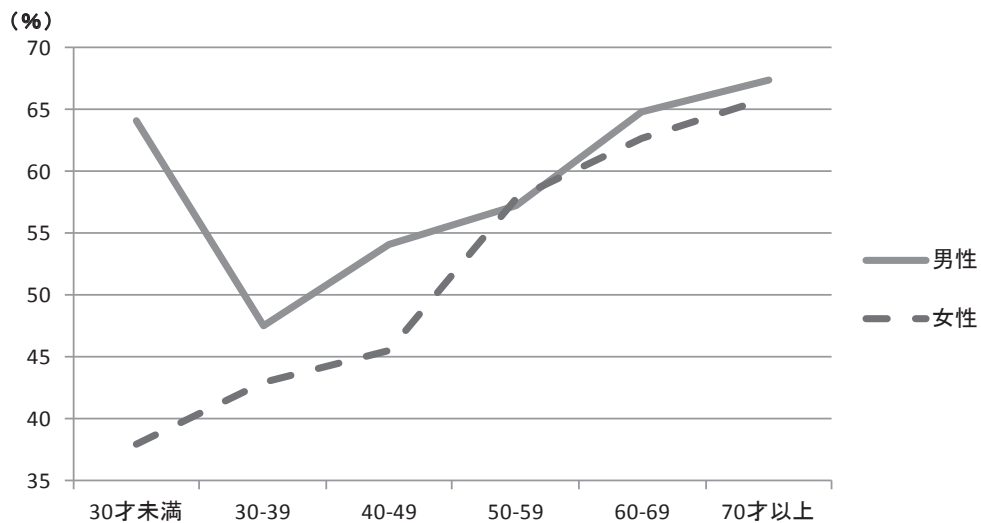


図16 年齢階層別 団体参加率（ボランティア・NPO・市民活動）



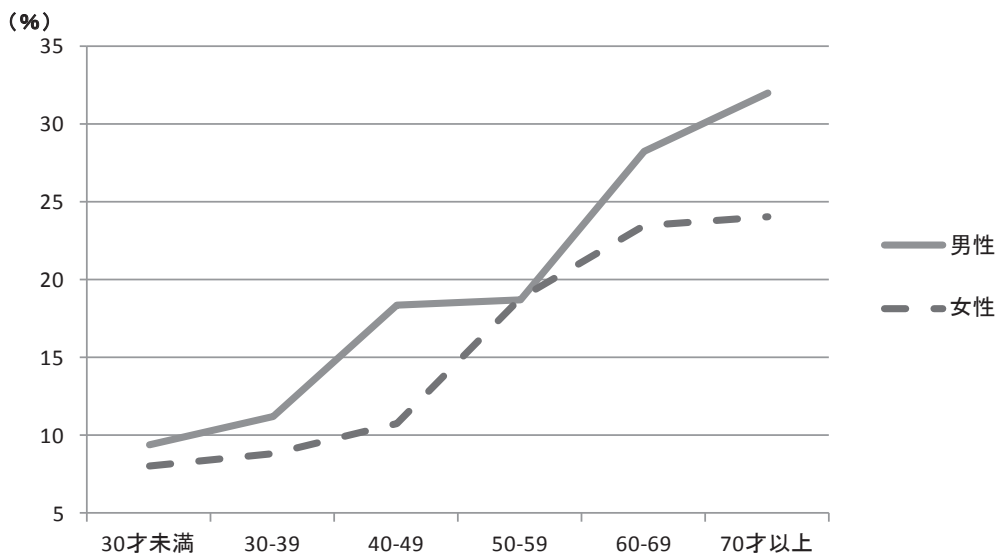
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図17 年齢階層別 団体参加率（スポーツ・趣味・娯楽）



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図18 年齢階層別 団体参加率 (その他の団体活動)

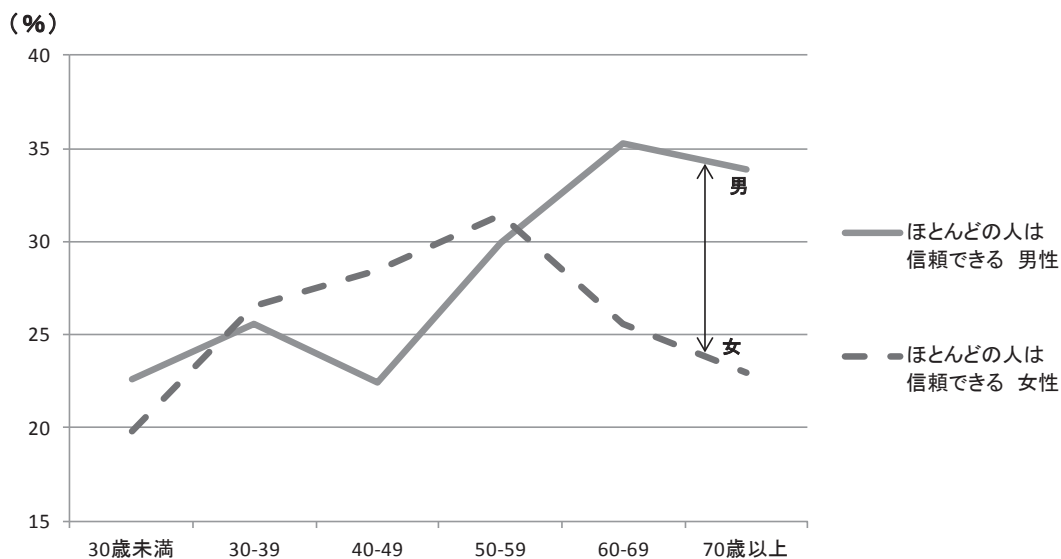


(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

認知的社会関係資本

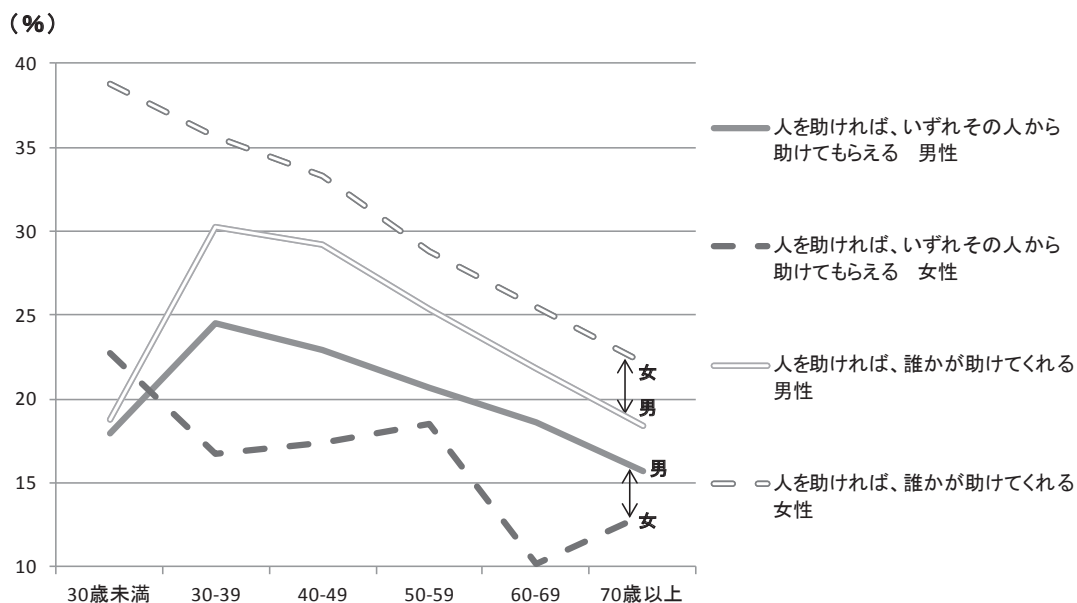
本調査では認知的社会関係資本として、「一般的信頼」「特定化信頼」「一般的互酬性」「特定化互酬性」を尋ねているが、「特定化信頼」は組織に対する信頼(「学校・病院等の公的機関等」「警察や交番等」「市役所・町村役場等」「自治会等の地縁団体」「ボランティア・NPO・市民活動団体」「勤務先」と人に対する信頼(「友人・知人」「近所の人々」「家族」「親戚」「同僚」)に分け、より詳細に調べている。「一般的信頼」は、図19に示されるように、本調査では男性四〇歳代の一般的信頼が二二%と極めて低いが、五〇歳代で回復し男女同水準となり、六〇歳代以降では逆に女性が大幅な低下をみせている。また、図20に示されるように一般的互酬性では、女性が一貫して男性よりも高いが、逆に特定化互酬性では二〇歳代を除き、男性の方が高い。一般的信頼と互酬性では、性差は年齢階別に極めて複雑な変化をしており、この背景は詳らかでない。ただし、人に対する「特定化信頼」(図21、図22)では「近所の人々」「友人・知人」では女性が男性よりも高く、「同僚」への信頼は男性の方が高い。

図19 年齢階層別 一般的信頼



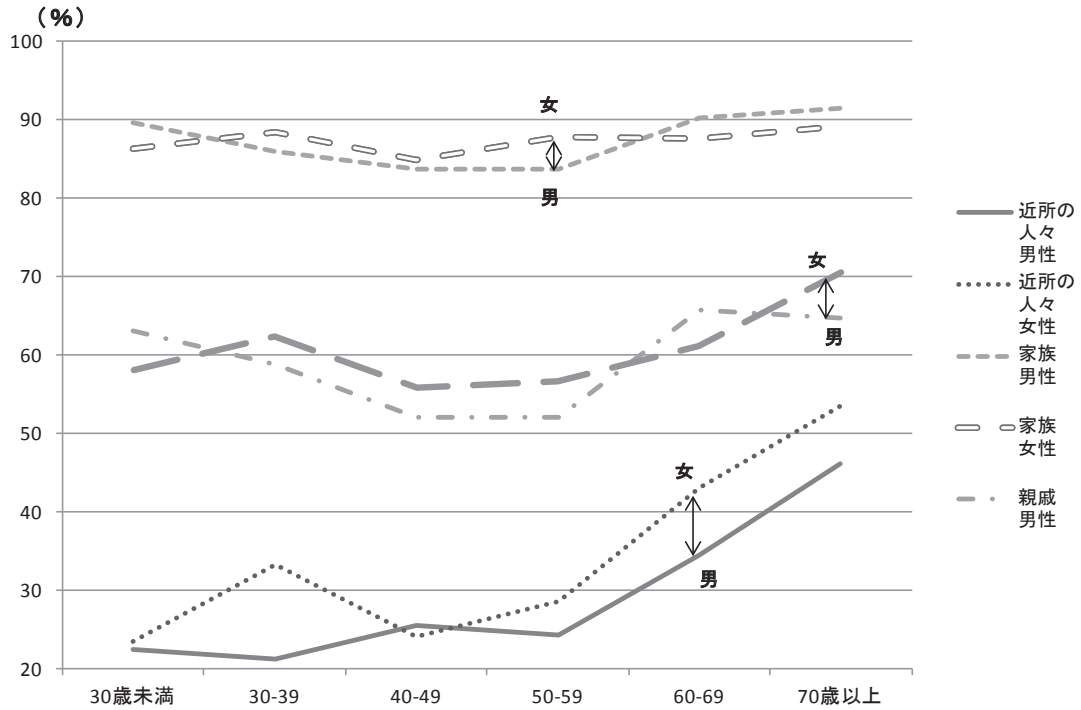
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図20 年齢階層別 特定化互酬性と一般的互酬性



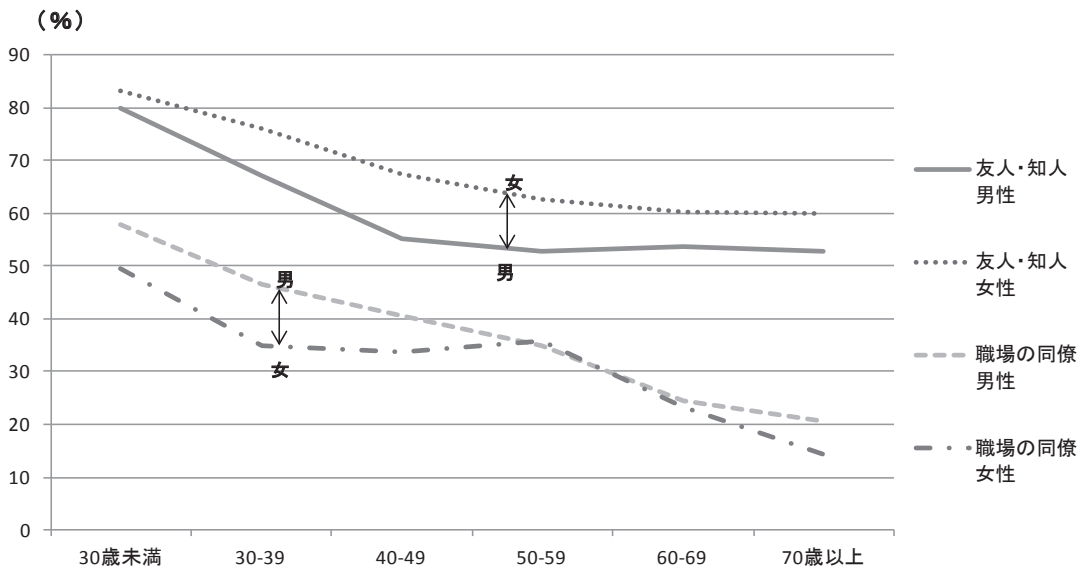
(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図21 年齢階層別 特定化信頼—対人①



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

図22 年齢階層別 特定化信頼—対人②



(資料) 「2013年 暮らしの安心・信頼社会参加に関するアンケート調査」より  
筆者作成

#### 四・年齢階層別にみた社会関係資本の 経年比較

二〇一三年調査の設問は基本的に二〇〇三年に内閣府国民生活局が株式会社日本総合研究所へ委託して実施したソーシャル・キャピタル調査研究会（委員長 山内直人 大阪大学教授）アンケート調査（WEB調査NⅡ二〇〇〇、郵送法調査NⅡ一八七八）に準拠している。また、二〇一〇年には筆者が郵送法による全国調査（NⅡ一五九九）を実施している。両調査の設問の大部分は今回実施した二〇一三年調査にも含まれているので、これらの調査との比較が可能である。以下ではこれら三調査の比較を通じて、社会関係資本の二〇〇三年から二〇一三年の間の変化を年齢階層別にみていきたい。ただし、年齢階層別のサンプル数は二〇〇三年調査、二〇一〇年調査、それぞれ二〇歳代三五九と一八三、三〇歳代三〇六と二六三、四〇歳代三〇五と二六七、五〇歳代三四五と二七七、六〇歳代三四七と三七二、七〇歳代二二二と二三七と、いずれも母集団推計には十分ではない。したがって、本稿での値はあくまでも参考

値である。

##### 構造的な社会関係資本

繰り返して述べているように、本調査では構造的な社会関係資本として、「近所づきあいの程度」「近所づきあいの頻度」「友人・知人とのつきあいの頻度」「親戚・親類とのつきあいの頻度」「同僚とのつきあいの頻度」「地縁的な活動の参加率」「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率」「ボランティア・NPO・市民活動への参加率」「その他団体活動への参加率」の九つの設問を設けている。このうち「近所づきあいの程度」（図23）、「近所づきあいの頻度」（図24）は、年齢階層が上がるほど上昇するが、いずれも二〇〇三年から二〇一三年の間に六つの年齢階層全てで低下している。特に四〇歳代と五〇歳代での低下が大きい。「近所づきあいの程度」のなかの選択肢である「隣の人と誰かも知らない」（図25）の比率は若年層ほど大きく上昇している。加えて「近所づきあいの頻度」の選択肢である「つきあいは全くしていない」の比率（図26）も同様の傾向がみられる。

図23 年齢階層別 近所づきあい (生活面で協力+日常的に立ち話)

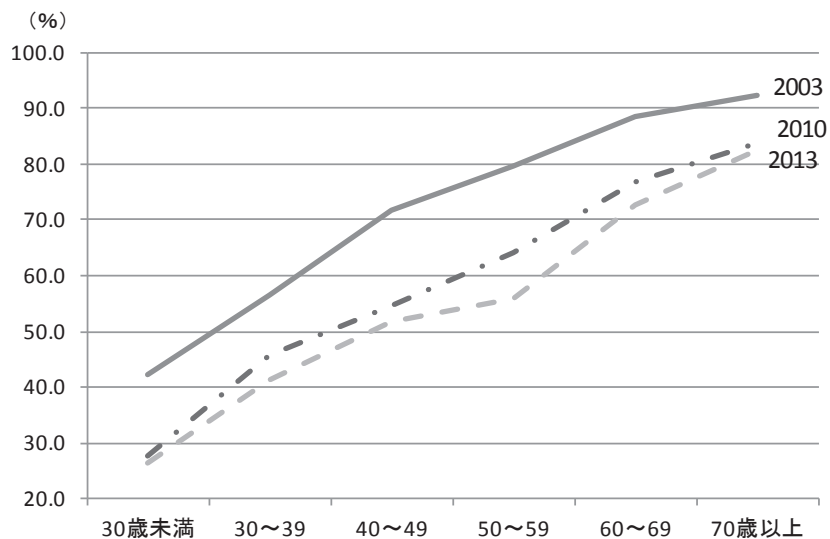


図24 年齢階層別 近所づきあい (かなり多くの人+ある程度の人数)

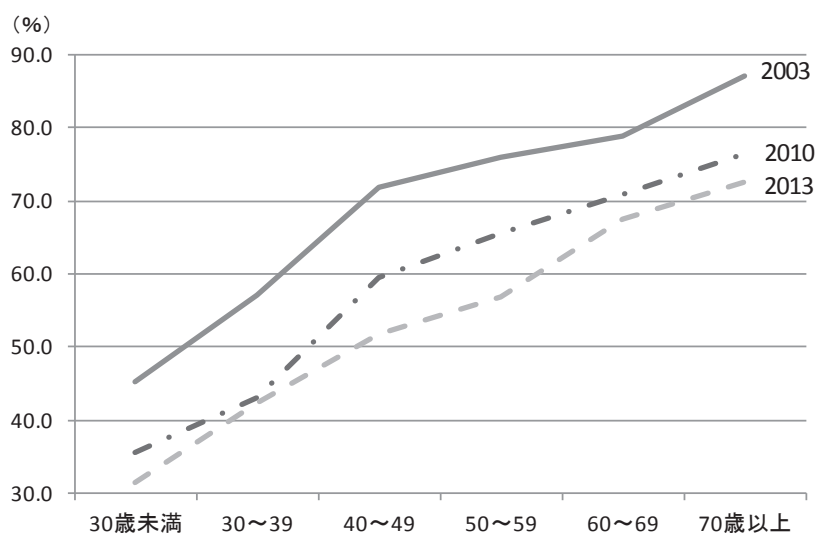




図25 近所づきあいの人数「隣の人がだれかも知らない」

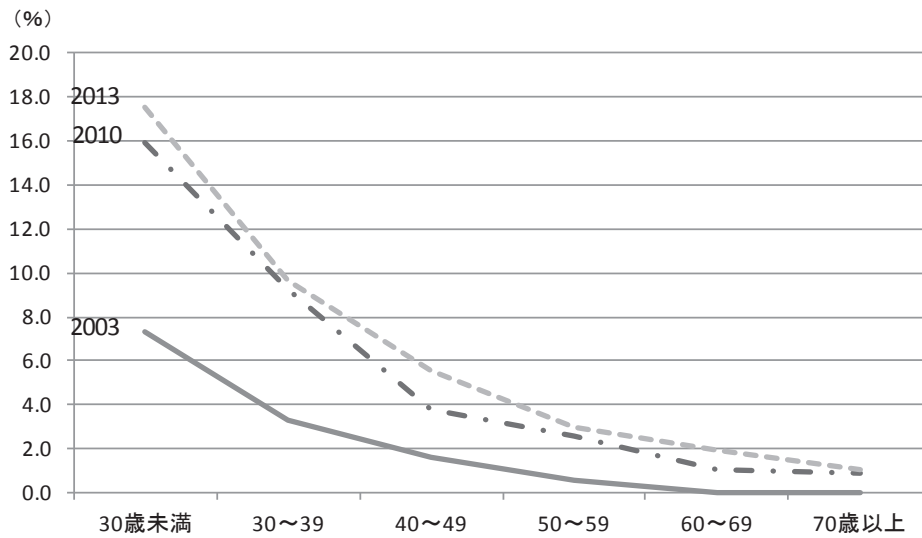
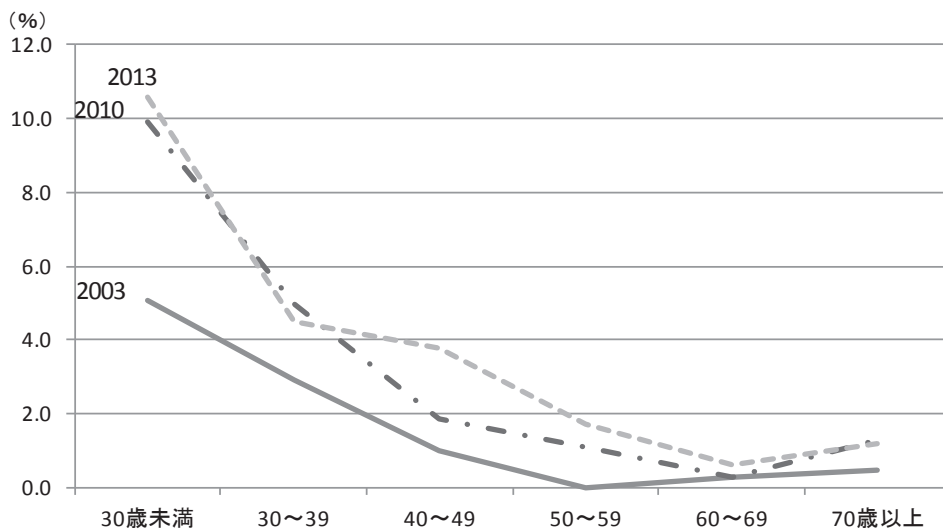


図26 近所づきあいの頻度「つきあいは全くしていない」

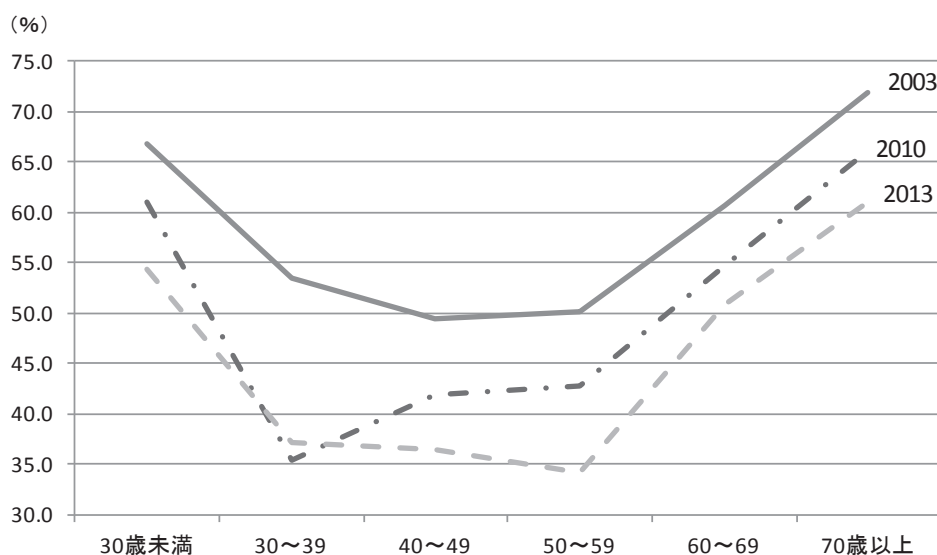


また、「友人・知人とのつきあいの頻度」も、図27に示されるように、二〇〇三年から二〇一三年の間、全年齢階層で低下している。特に、四〇歳代以上では二〇一〇年と二〇一三年の間も低下している。「親戚・親類とのつきあいの頻度」(図28)は二〇一〇年から二〇一三年の間の低下を大きく、「同僚とのつきあいの頻度」(図29)は二〇〇三年から二〇一三年の二〇年間、二〇歳代を除き全年齢階層で低下している。しかし、団体参加率は、四つのタイプの活動のいずれについても、高齢になるほど、参加率が上昇する(図30～33)。四つのタイプの活動のうち、「ボランティア・NPO・市民活動」「スポーツ・趣味・娯楽活動」は、全年齢階層で参加率が上昇した。前者は四〇歳代以降の参加率上昇が顕著であるが、後者は二〇歳代の若年層も含め全ての年齢階層で大幅な上昇がみられる。「地縁的な活動」は四〇歳代以降の参加率が上昇している。「その他の団体活動」では、六〇歳代、七〇歳代での上昇が顕著である。

認知的社会関係資本

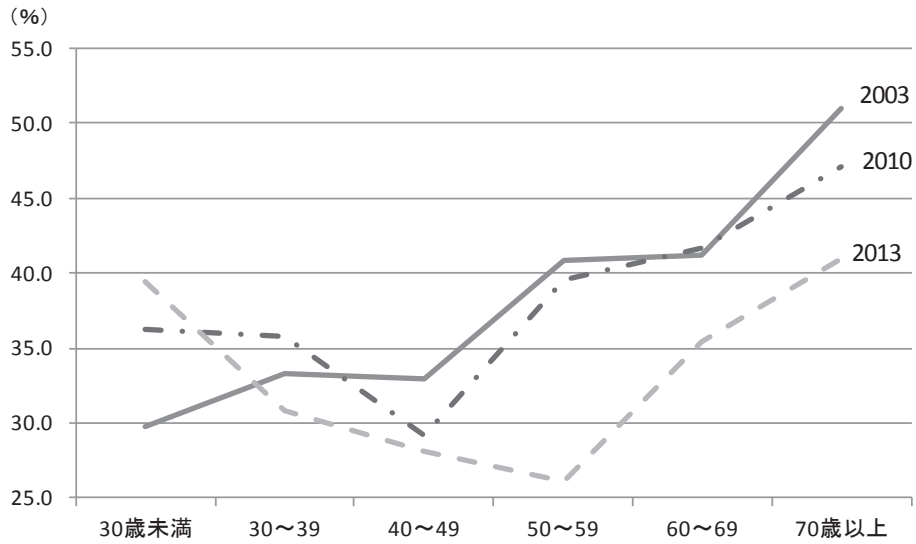
本調査では認知的社会関係資本として、「一般的信頼」

図27 年齢階層別 つきあい（友人・知人）



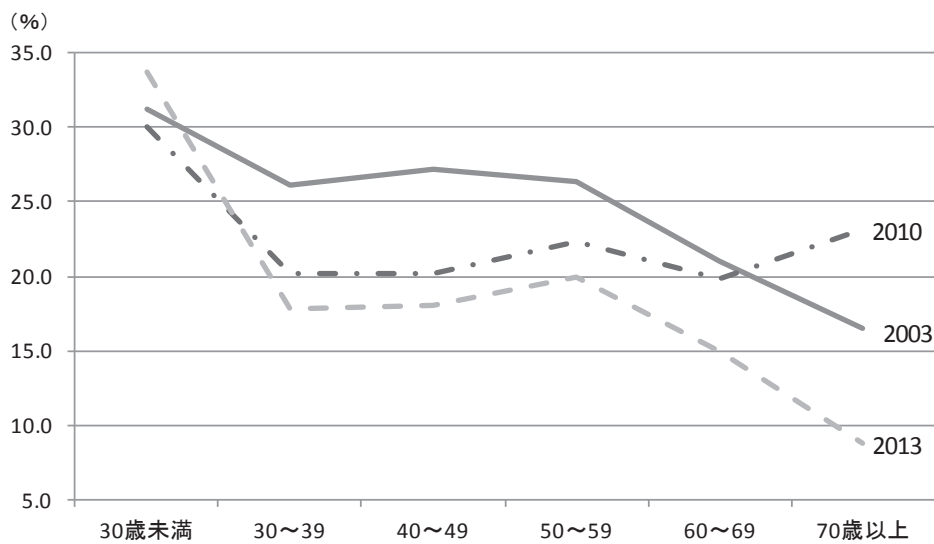
(注) 「日常的にある」と「ある程度頻繁にある」の合計

図28 年齢階層別 つきあい（親戚・親類）



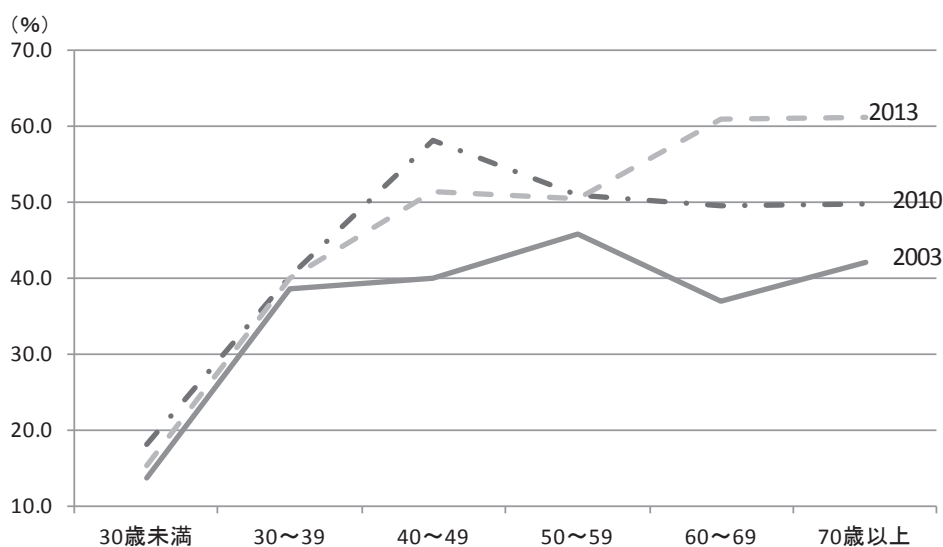
(注) 「日常的にある」と「ある程度頻繁にある」の合計

図29 年齢階層別 つきあい（同僚）



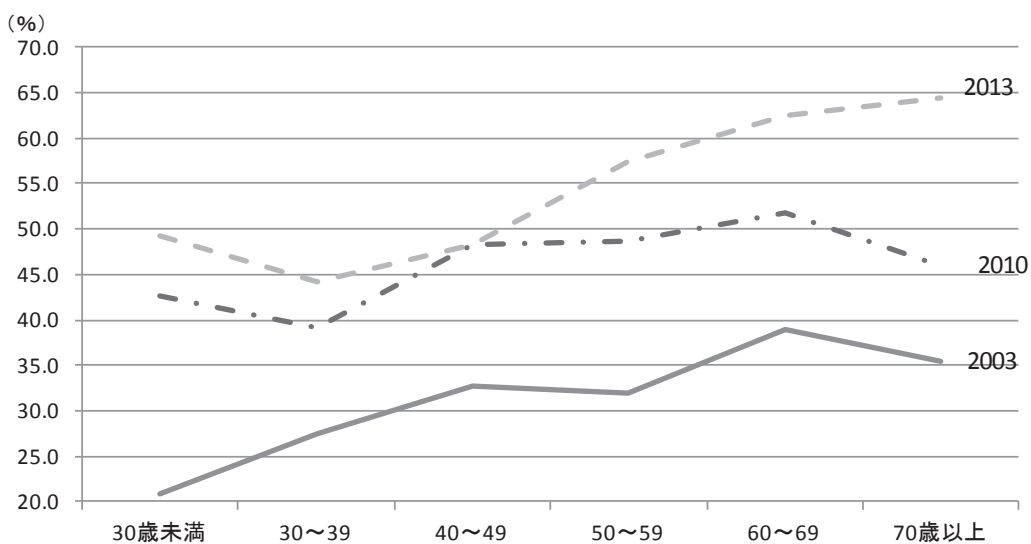
(注) 「日常的にある」と「ある程度頻繁にある」の合計

図30 年齢階層別 団体参加率（地縁的な活動）



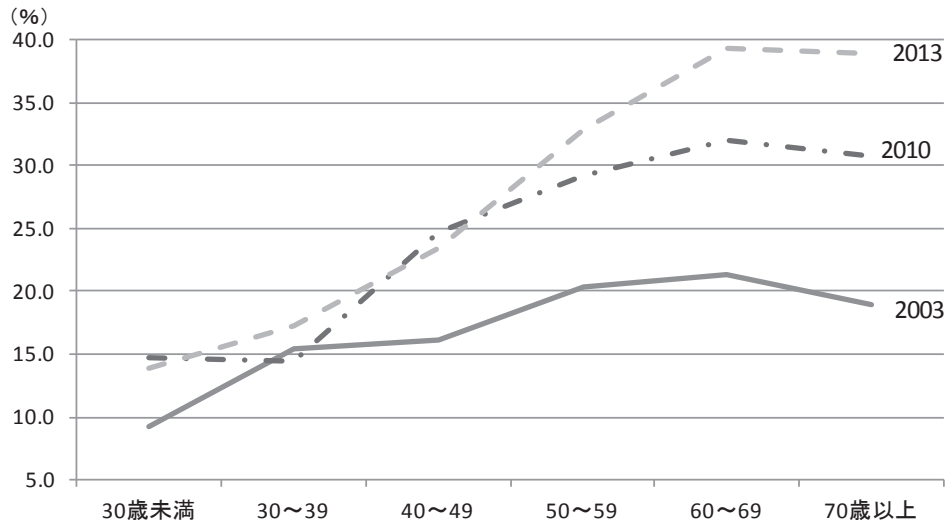
(注) 100－（活動していない、欠損値の割合）で参加率を算出

図31 年齢階層別 団体参加率（スポーツ・趣味・娯楽）



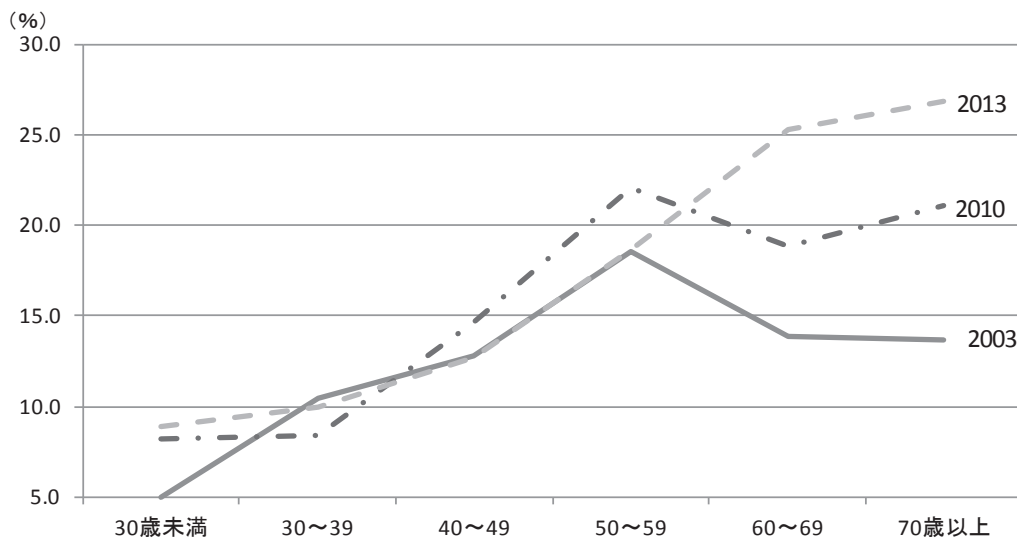
(注) 100－（活動していない、欠損値の割合）で参加率を算出

図32 年齢階層別 団体参加率（ボランティア・NPO・市民活動）



(注) 100－（活動していない、欠損値の割合）で参加率を算出

図33 年齢階層別 団体参加率（その他の団体活動）



(注) 100－（活動していない、欠損値の割合）で参加率を算出

「特定化信頼」「一般的互酬性」「特定化互酬性」を尋ねているが、「特定化信頼」は組織に対する信頼（「学校・病院等の公的機関等」「警察や交番等」「市役所・町村役場等」「自治会等の地縁団体」「ボランティア・NPO・市民活動団体」「勤務先」と人に対する信頼（「友人・知人」「近所の人々」「家族」「親戚」「同僚」）に分け、より詳細に調べている。

図34に示されるように、「一般的信頼」は二〇〇三年から二〇一〇年にかけて、全年齢階層で上昇している。また二〇一三年も、二〇歳代と四〇歳代を除き、二〇〇三年の水準よりも高い。二〇〇三年調査では四〇歳代が一番高く、一〇年後の二〇一三年調査では五〇歳代が一番高い。二〇〇三年調査の四〇歳代は一九六三年から七三年の高度成長期に生まれた世代であるが、高度成長期における幼少期の体験が一般的信頼についての前向きの評価をもたらしているのかもしれない。しかし、特定の人や組織への「特定化信頼」は総じて二〇〇三年から二〇一三年の間、ほぼ全年齢階層で低下している。ただし、対組織への「特定化信頼」は、二〇〇三年から二〇一〇年の変化は軽微で、二〇一〇年から二〇一三年の間の低下が大きい。たとえば、「市役所・町役場等」

（図35）、「学校・病院等の公的機関等」（図36）、「自治会などへの地縁団体」（図37）への信頼は、二〇〇三年と二〇一〇年ではほとんど変化がないが、二〇一〇年から二〇一三年にかけて全年齢階層で大幅に低下している。また、「警察や交番等」（図38）への信頼は二〇〇三年から二〇一〇年にかけてはむしろ上昇し、二〇一〇年以降大幅な低下となっている。

「特定化信頼」の対人についても、対組織と同様に二〇〇三年から二〇一三年の一年間を取れば、ほとんどの年齢階層で低下しているが、二〇〇三年から二〇一〇年の変化は必ずしも一律低下ではない。「友人・知人」への信頼（図42）は二〇〇三年から二〇一〇年の間二〇歳代から四〇歳代にかけては、むしろ二〇一〇年水準の方が高い。同様の傾向は「家族」（図43）、「親戚」（図44）、「同僚」（図45）への信頼でも見られる。換言すれば、「特定化信頼」は対組織・対人ともに、二〇〇三年から二〇一〇年までの変化は比較的軽微であり、二〇一〇年以降大幅低下となっている。



図34 一般人への信頼「ほとんどの人は信頼できる」

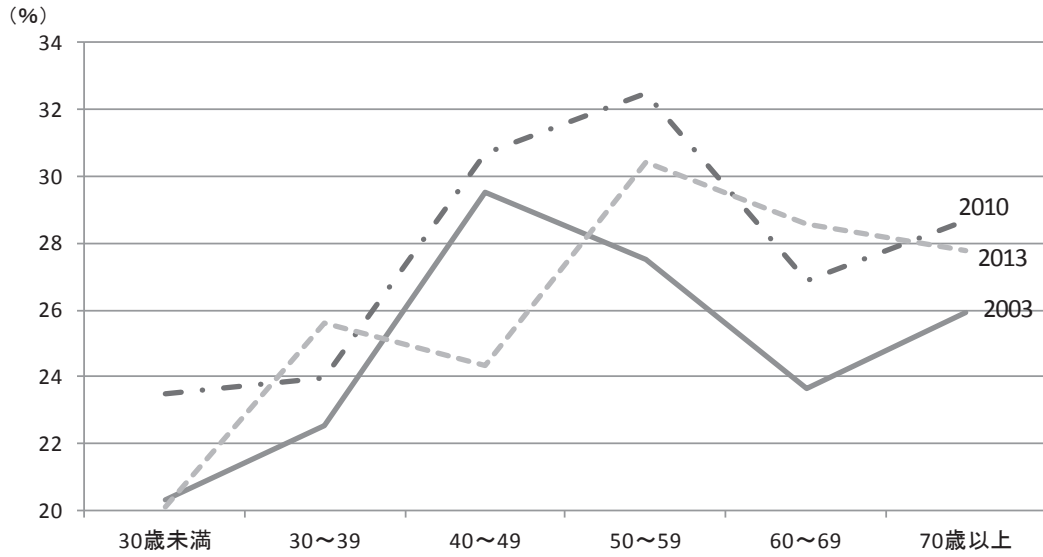
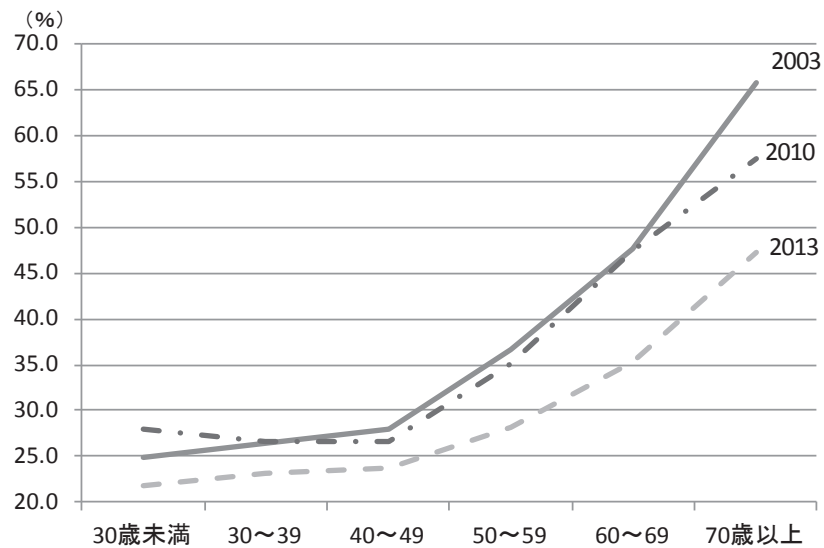
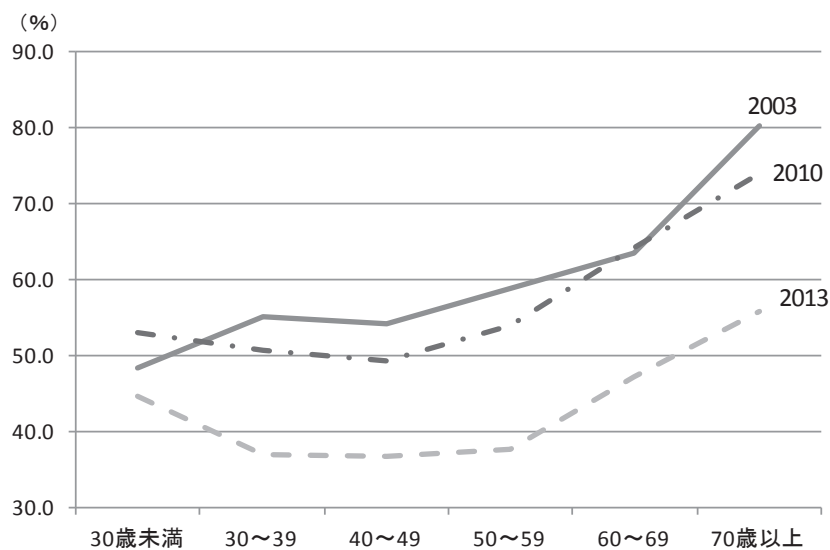


図35 年齢階層別 特定化信頼—対組織（市役所・町役場等）



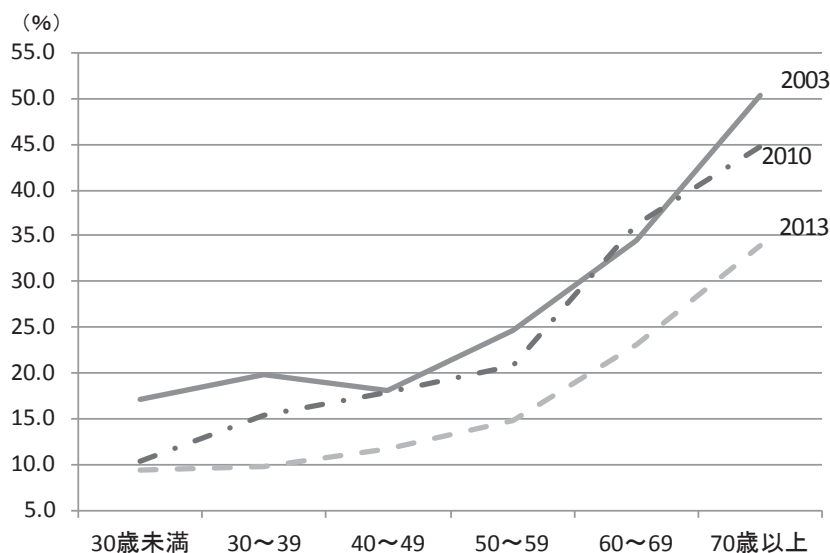
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図36 年齢階層別 特定化信頼対組織（学校・病院等の公的機関等）



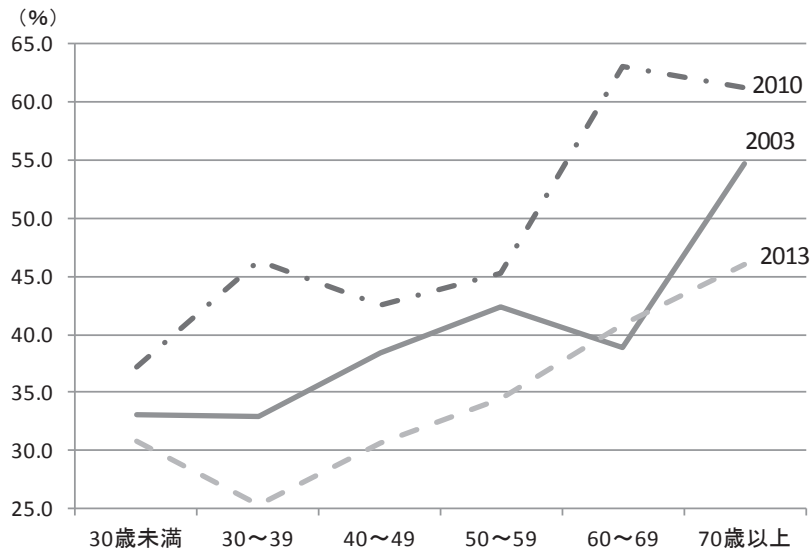
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図37 年齢階層別 特定化信頼対組織（自治会等の地縁団体）



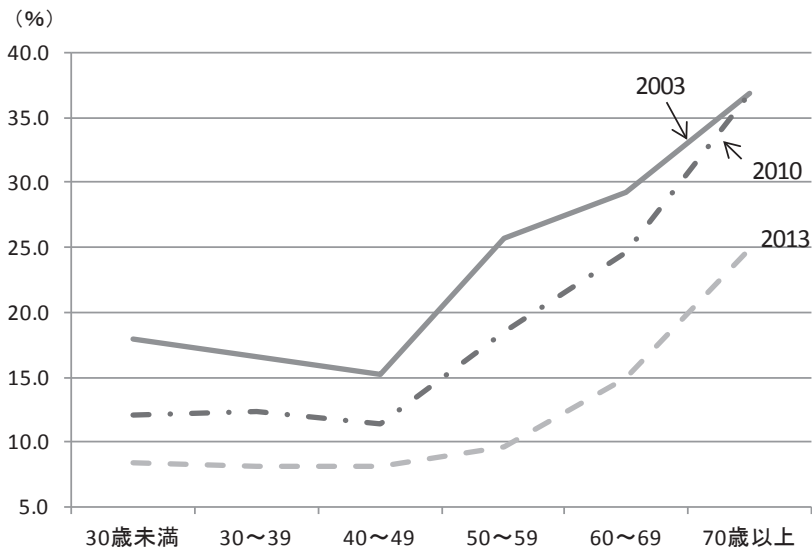
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図38 年齢階層別 特定化信頼—対組織 (警察や交番等)



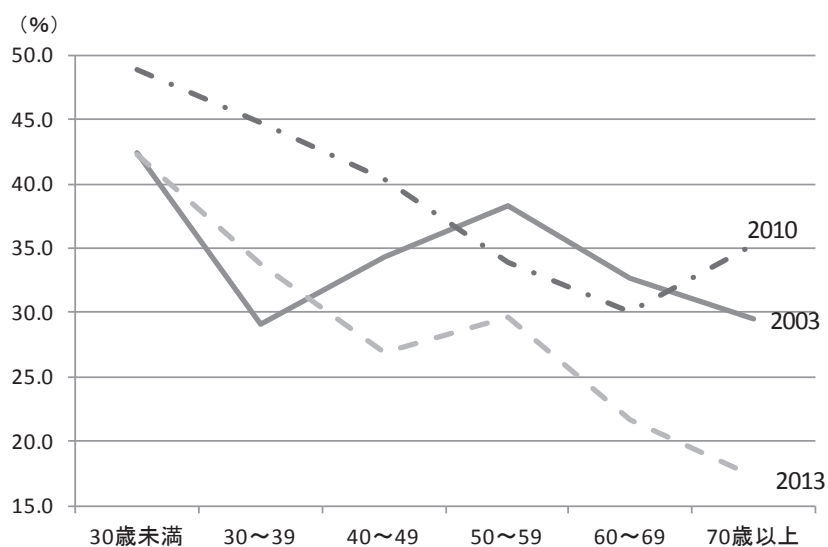
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図39 年齢階層別 特定化信頼対組織 (ボランティア・NPO・市民活動団体)



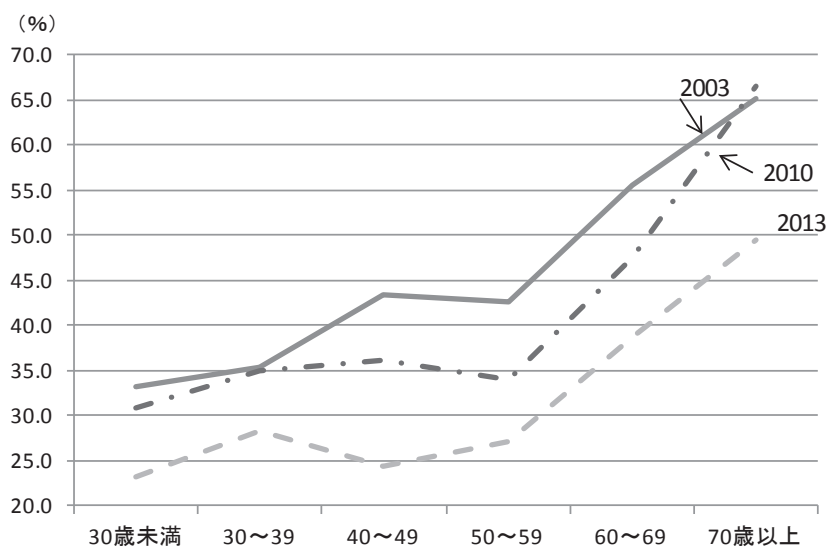
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図40 年齢階層別 特定化信頼—対組織（勤務先）



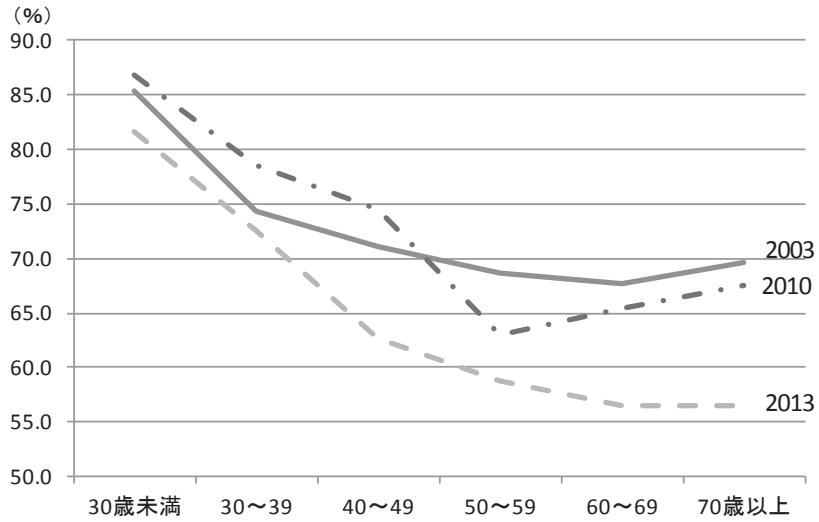
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図41 年齢階層別 特定化信頼—対人（近所の人々）



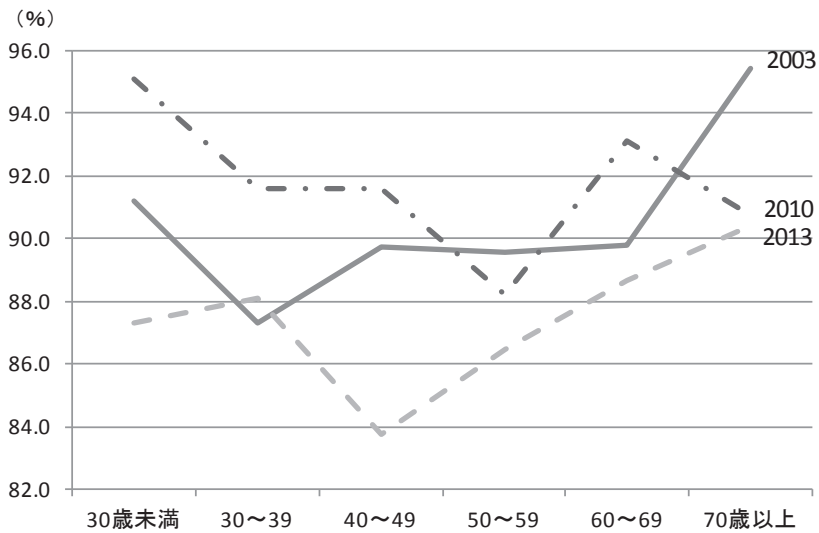
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図42 年齢階層別 特定化信頼—対人（友人・知人）



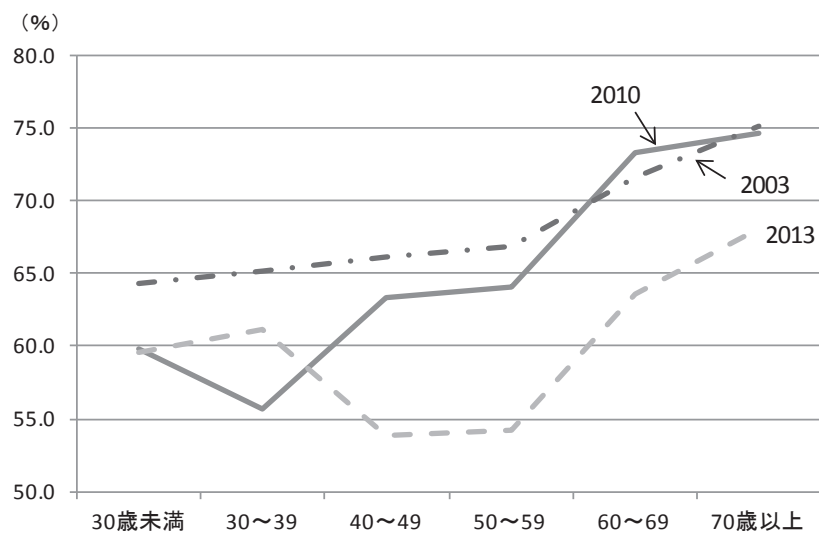
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図43 年齢階層別 特定化信頼—対人（家族）



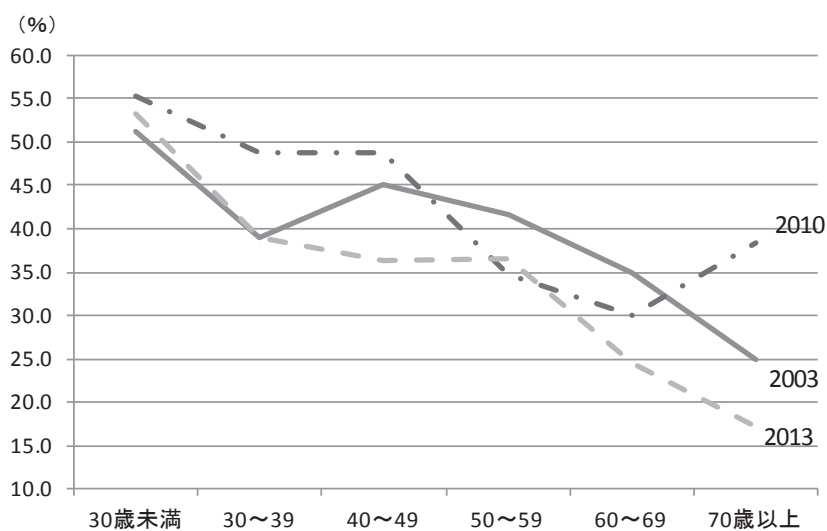
(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図44 年齢階層別 特定化信頼—対人（親戚）



(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

図45 年齢階層別 特定化信頼—対人（職場の同僚）



(注) 「大いに頼りになる」と「ある程度、頼りになる」の合計

## 五・まとめ

本稿では筆者が実施した二〇一三年全国社会関係調査（経年変化では二〇〇三年調査、二〇一〇年調査も用いて）の個票データを用いて、年齢階層別のクロス集計表から以下のような点を見出した。

① ネットワークや団体参加などの構造的な社会関係資本については、総じていえば、年齢階層が上がるほどつき

あいや団体参加の頻度が上がる。その一方で、信頼や互酬性などの認知的な社会関係資本については、年齢階層が上がれば上がるほど高水準になるわけではない。むしろ、社会全体へ対する一般的信頼は壮年期がピークで、六〇歳代以降は低下傾向がみられる。また、特定化信頼は、同僚や友人・知人への信頼は年齢が上がると低下する。同様に互酬性は、一般的信頼と反対に、若年層のほうが壮年層、高齢層よりも高い。

② 「生活に満足」の比率はどの年齢階層でも五割を超え、年齢階層別には大きな差はみられないが、四〇歳代、五〇歳代が五割と最も低く、六〇歳代で上昇し、七〇歳代では六割を越える。生活満足度が年齢階層にかかわら

ず高水準であるが、「孤立への懸念」も各年齢階層で三割前後と比較的高く、六〇歳代で二五％程度へ低下するが、七〇歳代で再び三割が「孤立への懸念」があるとしている。同様の傾向は「家庭内の人間関係」「近隣での人間関係」でもみられ、前者は二割前後、後者一割前後の水準で、全年齢階層共通の問題・心配事となっている。孤立を含めた人間関係への懸念は全年齢階層共通であり、人生を通じて変わらない悩みの種なのかもしれない。

③ 年齢階層別に寄付（金銭＋現物）した者の比率をみると、「各種募金」への参加率が最も高い。「各種募金」に次いで「まちづくり・環境保全・安全な生活・国際協力のための活動」への寄付の参加率が高く、「各種募金」や他の寄付と比べて現物の比率が比較的高い。どの分類の寄付でも、年齢階層が上がれば上がるほど、寄付への参加率が高まる。

「公共交通機関の料金をごまかす」「賄賂」「脱税」「無資格での年金や医療給付の請求」の四つの不正に対する許容度（「認められない」の比率）については、脱税への許容度が一番低く（「認められない」とする比率が高い）、「年金・医療給付の不正受給」への許容度が最も高い。

四つの不正、いずれに対しても年齢階級が上がるほど、不正を認めないとする比率が高まるが、「脱税」「公共交通料金」については「認められない」とする比率が七〇歳代では若干低下する。また、「年金・医療給付の不正受給」については若年層の許容度が特に高く、二〇歳代では「認められない」とする比率は五六%にすぎず、年金・医療給付に関するモラル低下が顕著である。

④心の健康を表すK6は二〇歳代が最も高く、その後六〇歳代まで年齢を重ねるごとに低下しているが、身体の健康を表す主観的健康感は一〇歳代を底にその後年齢階層が上がるごとに一貫して上昇しており、七〇歳代ではほぼ三人に一人が健康ではない状態となっている。心の健康は年齢と順相関で年を取ると改善するが、身体の健康は年齢と逆相関で年を取ると悪化する。身体の健康と年齢の関係は当然であるが、心の健康と年齢の順相関は、若年層を囲む環境がいかに過酷であるかを示唆しているようにも解釈できよう。

⑤男女別には、構造的な社会関係資本は、身近な人々とのつきあいは女性の方が密であるが、団体参加率は男性のほうが高い。

⑥二〇〇三年から二〇一三年までの変化をみると、「近所づきあいの程度」、「近所づきあいの頻度」は、いずれも二〇〇三年から二〇一三年の間に六つの年齢階層すべてで低下している。特に四〇歳代と五〇歳代での低下が大きい。特に「近所づきあいの程度」のなかの選択肢である「隣の人と誰か知らない」の比率は若年層ほど大きく上昇している。加えて「近所づきあいの頻度」の選択肢である「つきあいはまったくしていない」の比率も同様の傾向がみられる。また、「友人・知人とのつきあいの頻度」も、二〇〇三年から二〇一三年の間、全年齢階層で低下している。特に、四〇歳代以上では二〇一〇年と二〇一三年の間も低下している。「親戚・親類とのつきあいの頻度」は二〇一〇年から二〇一三年の間の低下が大きく、「同僚とのつきあいの頻度」は二〇〇三年から二〇一三年の一年で、二〇歳代を除き全年齢階層で低下している。しかし、団体参加率は、四つのタイプの活動のいずれについても、一〇年間でおしなべて高齢になるほど参加率が上昇している。四つのタイプの活動のうち、「ボランティア・NPO・市民活動」と「スポーツ・趣味・娯楽活動」は全年齢階層で参加率



が上昇した。前者は四十歳代以降の参加率上昇が顕著であるが、後者は二〇歳代の若年層も含め全ての年齢階層で大幅な上昇がみられる。「地縁的な活動」は四〇歳代以降の参加率が上昇している。また、「その他の団体活動」では、六〇歳代、七〇歳代での上昇が顕著である。

「一般的信頼」は二〇〇三年から二〇一〇年にかけて、全年齢階層で上昇している。また二〇一三年も、二〇歳代と四〇歳代を除き、二〇〇三年の水準よりも高い。二〇〇三年調査では四十歳代が一番高く、一〇年後の二〇一三年調査では五〇歳代が一番高い。二〇〇三年調査の四〇歳代は一九六三年から七三年の高度成長期に生まれた世代であるが、高度成長期における幼少期の体験が一般的信頼についての前向きな評価をもたらしているのかもしれない。しかし、特定の人や組織への「特定化信頼」は総じて二〇〇三年から二〇一三年の間、ほぼ全年齢階層で低下している。ただし、「特定化信頼」は対組織・対人ともに、二〇〇三年から二〇一〇年までの変化は比較的軽微であり、二〇一〇年以降大幅低下となっている。

## 謝辞

本調査は平成二五年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（A））「ソーシャル・キャピタルの政策含意―その醸成要因と地域差の研究」（課題番号二四二四三〇四〇）研究代表者・稲葉陽二）を受けて実施したものです。研究分担者の石田光規先生、石田祐先生、菅野剛先生、西川雅史先生、露口健司先生から貴重な助言を賜りました。内閣府国民生活局から二〇〇三年調査の個票データの提供を受けました。助成を賜った文部科学省と内閣府に篤く御礼申し上げます。また、査読の労をお取りいただいた先生方からも貴重なご指摘をいただき、感謝しております。なお、本稿の資料を作成していただいた緒方淳子、草ヶ谷明日美、西谷直樹、小笠原宜子の各氏に対しても記して謝意を表させていただきます。

## 参考文献

- 稲葉陽二（二〇一四）「日本の社会関係資本は毀損したか―二〇一三年全国調査と二〇〇三年全国調査からみた社会関係資本の変化―」『政経研究』第五一卷第一号、日本大  
学法学会、一―三〇頁。

稲葉陽二（二〇一一）「暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査 二〇一〇年社会関係資本調査の概要」『政経研究』第四八巻第一号、日本大学法学会、一〇七―一三〇頁。

稲葉陽二（二〇〇五）「ソーシャル・キャピタルの経済的含意―心の外部性とうき合うか」『計画行政』日本計画行政学会、第二八巻四号、一七―二二頁。

稲葉陽二（二〇〇八）「序章 ソーシャル・キャピタルの多面性と可能性」稲葉陽二（編著）『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社、一一―二二頁。

内閣府国民生活局（二〇〇三）『ソーシャル・キャピタル―豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて―』国立印刷局。

以上

(1) 社会関係資本の定義は稲葉（二〇〇五：二〇〇八）を参照されたい。

(2) K6値。

(3) 社会関係資本の構成要素は信頼、互酬性、ネットワークなど多岐にわたるが、それらを包括的に対象とした全国社会調査は二〇〇三年内閣府国民生活局調査（郵送法とWEB調査併用）、二〇〇五年内閣府経済社会総合研究所調査（WEB調査）、二〇〇七年日本総研調査

（WEB調査）、二〇〇八年稲葉・日本総研調査（WEB調査）、稲葉による二〇一〇年調査（郵送法）、今回の二〇一三年調査（郵送法）のみである。

(4) 平成二五年七月二三日付承認番号二五―二―一〇。

(5) 本稿で記述している集計値は欠損値を含めた総数を分母として算出している。

(6) 調査結果の概要は、内閣国民生活局（二〇〇三）参照。同調査は、郵送法調査とWEB調査を同一の質問票を用いて実施しているが、本稿ではそのうち郵送法のみを扱う。

## 暮らしの安心・信頼・社会参加 に関するアンケート調査票 単純集計結果

本調査は、皆さんの、暮らしの安心・信頼・社会参加に関するものです。

〈調査企画〉 日本大学法学部 稲葉陽二研究室

- ・ご回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。
- ・ご回答は、大部分が、あてはまるものの番号に○をつけていただく形式です。
- ・ご回答は、すべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。
- ・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、10月31日(木)までにご投函ください。
- ・ご協力いただいた方には、後日、お礼に図書カード(500円分)をお送りいたします。(11月下旬発送予定)
- ・ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

### アンケートの実施に関するお問い合わせ

(調査委託機関) 一般社団法人 中央調査社

7-17 代碼: 0120-48-5351、0120-49-3023

(受付時間: 平日9~12時、13~17時)

### アンケートの内容に関するお問い合わせ

日本大学 法学部 稲葉陽二研究室

電話: 03-5275-8639 (直通)

### 1. 他人への信頼等についてお伺いします

問1-(1) あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも信頼できないと思いますか。あなたの考え方に近いと思うレベルの数字を1つ選び、その数字に○印をつけてください。(○は1つ) N=3,575 平均 4.9 (10わからない除く)

数字に○をつけて…… ください。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	ほとんど の人は信頼で きる。 5.9%	7.0%	14.0%	11.4%	11.4%	5.7%	5.3%	2.4%	注: 意する に越したこ とはない。 13.6%	わか らな い。 2.1%

問1-(2) それでは、「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対してはいいかでしょうか。(○は1つ) N=3,575 平均 5.3 (10わからない除く)

数字に○を つけて…… ください。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	ほとんど の人は信頼で きる。 4.9%	5.7%	11.4%	9.9%	6.7%	6.1%	3.2%	注: 意する に越したこ とはない。 20.6%	わか らな い。 2.7%	

問1-(3) あなたは、人を助ければ、いずれその人から助けてもらえると思いますか。(○は1つ) N=3,575 無回答=1.7%

17.4%	そう思う	46.9%	どちらともいえない	34.7%	そうは思わない
-------	------	-------	-----------	-------	---------

問1-(4) あなたは、人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰か助けてくれるように世の中はできている、と思いますか。(○は1つ) N=3,575 無回答=1.0%

26.9%	そう思う	41.5%	どちらともいえない	30.7%	そうは思わない
-------	------	-------	-----------	-------	---------

無回答=0.9%

### 2. 日常的なつきあひについてお伺いします

問2-(1) あなたは、ご近所の方とどのようなつきあひをされていますか。①と②について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。①つきあひの程度 (○は1つ) N=3,575

16.7%	互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる
42.3%	日常的に立ち話しをする程度のつきあひはしている
37.5%	あいさつ程度の最小限のつきあひしかしていない
2.9%	つきあひは全くしていない

②つきあっている人の数 (○は1つ) N=3,575 無回答=0.6%

12.4%	近所のかなり多くの人と面識・交流がある (おおよね20人以上)
44.4%	ある程度の人と面識・交流がある (おおよね5~19人)
37.5%	近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある (おおよね4人以下)
5.0%	隣の人かだれかとも知らない

無回答=0.8%

問2-(2) 以下の①から③について、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか。

①友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）(○は1つ) N=3,575

14.9%	日常的にある	(毎日～週に数回程度)
30.3%	ある程度頻繁にある	(週に1回～月に数回程度)
40.2%	ときどきある	(月に1回～年に数回程度)
12.2%	めったにない	(年に1回～数年に1回程度)
1.5%	全くない	(もしくは友人・知人はいない)

②親戚・親類とのつきあい (○は1つ) 無回答=0.8% N=3,575

9.9%	日常的にある	(毎日～週に数回程度)
23.0%	ある程度頻繁にある	(週に1回～月に数回程度)
47.7%	ときどきある	(月に1回～年に数回程度)
17.6%	めったにない	(年に1回～数年に1回程度)
1.0%	全くない	(もしくは親戚・親類はいない)

③職場の同僚とのつきあい（職場以外で）(○は1つ) 無回答=0.8% N=2,393

7.8%	日常的にある	(毎日～週に数回程度)
17.9%	ある程度頻繁にある	(週に1回～月に数回程度)
40.9%	ときどきある	(月に1回～年に数回程度)
21.4%	めったにない	(年に1回～数年に1回程度)
10.0%	全くない	(もしくは同僚はいない)

**3. 地域での活動状況についてお伺いします**

問3-(1) あなた自身の、地域における活動状況についてお聞かせします。あなたは現在、次の①から④のような活動をしていますか。その頻度についてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。

①地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会等）(○は1つ) N=3,575

0.8%	週に4日以上	2.1%	週に2～3日	3.4%	週に1回程度	6.5%	月に2～3日程度
9.6%	月に1日程度	28.3%	年に数回程度活動	48.2%	活動していない		

②スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等）(○は1つ) 無回答=1.2% N=3,575

4.3%	週に4日以上	10.7%	週に2～3日	12.7%	週に1回程度	8.8%	月に2～3日程度
5.8%	月に1日程度	13.5%	年に数回程度活動	43.1%	活動していない		

③ボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防災・防災、環境、国語読み、読書活動など）(○は1つ) N=3,575

1.0%	週に4日以上	1.7%	週に2～3日	2.9%	週に1回程度	3.2%	月に2～3日程度
4.7%	月に1日程度	16.6%	年に数回程度活動	68.6%	活動していない		

④その他の団体活動（商工会・業種組合、宗教、政治など）(○は1つ) 無回答=1.3% N=3,575

0.0%	週に4日以上	0.7%	週に2～3日	2.0%	週に1回程度	2.5%	月に2～3日程度
3.7%	月に1日程度	8.8%	年に数回程度活動	79.6%	活動していない		

問3-(2) あなたが現在もとも頻繁に参加している活動を1つだけ選び、その数字に○印をつけてください。(○は1つ) 無回答=1.8% N=3,575

11.1%	地縁的活動	32.6%	スポーツ・趣味・娯楽活動	5.5%	ボランティア・NPO・市民活動
7.3%	その他の団体活動	40.9%	地域での活動には参加していない		

問3-(3) 前問でも以外を選択した方のうち、あなたが現在もとも頻繁に参加している活動についてお聞かせします。次の①から④について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。

①男女の割合 (○は1つ) N=2,019

6.6%	男性のみ	13.0%	女性のみ	22.9%	男性が多い	27.0%	女性が多い
27.4%	男女ほぼ同割合						

②居住地域 (○は1つ) 無回答=3.0% N=2,019

47.0%	同じ市区町村の人のみ	50.1%	別の市区町村の人もいる
-------	------------	-------	-------------

③年齢構成 (○は1つ) 無回答=2.9% N=2,019

37.1%	ほぼ同じ世代同士	60.0%	さまざまな世代が混ざっている (年齢差が50歳以上)
-------	----------	-------	----------------------------

④地位など (○は1つ) 無回答=2.9% N=2,019

33.1%	みな同じような社会的地位だ	63.8%	さまざまな社会的地位の人がいる
-------	---------------	-------	-----------------

4. 全員の方向 自身の生活についてお伺いします

問4-(1) あなたは、現在のご自身の生活に満足していますか。(○は1つ) N=3,575

4. 0% 非常に満足している	48.3%	満足している	25.4%	どちらともいえない	12.5%	やや不満足である	5.3%	不満足である	無回答=3.6%
-----------------	-------	--------	-------	-----------	-------	----------	------	--------	----------

問4-(2) あなたは、日常生活を送るにあたって、問題や心配事がありますか。  
次の①から⑰について、「かなり心配」から「全く心配でない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。  
(○はそれぞれ1つずつ) N=3,575

	かなり心配	少し心配	どちらともいえない	あまり心配でない	全く心配でない	無回答
①ご自分の健康・身体状況	9.2%	47.5%	11.8%	25.6%	4.7%	無回答=1.3%
②老後の自分の世話	18.5%	40.8%	19.2%	17.1%	3.1%	無回答=1.4%
③ご家族の健康	15.4%	50.4%	13.5%	15.8%	2.5%	無回答=2.4%
④家族(高齢者)の世話や介護	18.9%	38.2%	14.5%	14.1%	9.4%	無回答=4.9%
⑤乳幼児期の子どもの子育て	3.3%	13.0%	17.7%	17.5%	36.8%	無回答=1.6%
⑥子や孫のしつけや教育	5.5%	22.8%	18.4%	21.3%	24.2%	無回答=7.7%
⑦失業やリストラ	10.3%	20.3%	16.8%	19.7%	24.5%	無回答=8.4%
⑧年収や家計	22.9%	35.0%	15.3%	18.1%	6.0%	無回答=2.8%
⑨仕事上のストレス	10.8%	25.1%	20.5%	18.9%	16.6%	無回答=8.1%
⑩定年後の人生設計	17.7%	31.8%	17.2%	17.5%	9.1%	無回答=6.7%
⑪職探しや就職	11.9%	16.6%	18.3%	16.8%	26.4%	無回答=10.0%
⑫家庭内人間関係	3.9%	13.0%	15.2%	34.8%	29.2%	無回答=4.1%
⑬近隣での人間関係	1.9%	8.4%	26.0%	42.7%	18.6%	無回答=2.4%
⑭近隣での住環境	2.3%	10.1%	23.4%	42.8%	18.7%	無回答=2.8%
⑮地域での非行や犯罪	2.9%	17.4%	26.0%	37.9%	12.8%	無回答=3.1%
⑯自分の将来	15.7%	33.4%	21.6%	20.3%	6.6%	無回答=2.5%
⑰生活上の孤立	7.0%	19.2%	22.5%	33.2%	15.9%	無回答=2.3%

問4-(3) 前ページ問4-(2)でお答えいただいたような日常生活の問題や心配事について、あなたは、相談したり頼ったりする人や組織がありますか。  
次の①から⑰について、「大いに頼りになる」から「全く頼りにできない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ) N=3,575

	大いに頼りになる	ある程度頼りになる	どちらともいえない	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	無回答
①市役所・町村役場等	2.6%	27.2%	35.5%	22.7%	7.9%	無回答=4.1%
②学校、病院等の公的機関等	4.8%	36.8%	34.1%	15.9%	4.2%	無回答=4.2%
③警察や交番等	3.4%	30.7%	39.6%	16.1%	6.0%	無回答=4.3%
④地域の顔団体その1(自治会等の地域団体)	1.1%	16.1%	46.5%	20.8%	10.2%	無回答=5.3%
⑤地域の顔団体その2(ボランティア・NPO・市民団体)	1.0%	11.0%	50.2%	20.6%	10.8%	無回答=6.4%
⑥勤務先(会社等)	3.1%	20.5%	33.3%	14.7%	13.7%	無回答=14.7%
⑦近所の人々	3.7%	28.2%	35.9%	19.0%	9.5%	無回答=3.7%
⑧家族	42.4%	41.7%	8.1%	2.6%	1.3%	無回答=3.9%
⑨親戚	16.3%	41.9%	22.3%	10.4%	5.7%	無回答=3.4%
⑩友人・知人	14.9%	45.5%	24.3%	8.7%	3.2%	無回答=3.4%
⑪職場の同僚	4.0%	24.8%	30.7%	12.2%	14.9%	無回答=13.4%

問4-(4) あなたは、普段ご自分で健康だと思いますか。(○は1つ) N=3,575  
7.9% とても健康だ 65.8% まあ健康な方だ 16.4% あまり健康でない 6.0% 健康ではない 無回答=3.9%

問4-(5) 次の①から⑥について、過去1か月の間はどのようであったか、「いつも」から「全くない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	N=3,575				
	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
①神経過敏に感じましたか。	4.0%	7.0%	23.2%	28.2%	34.9%
②絶望的だと感じましたか。	1.9%	2.6%	10.4%	18.5%	63.8%
③そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1.8%	2.9%	15.5%	27.9%	49.3%
④気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか。	2.2%	4.1%	15.8%	29.1%	46.0%
⑤何をしても骨折りと感じましたか。	1.9%	3.7%	14.9%	31.7%	45.1%
⑥自分は価値のない人間だと感じましたか。	2.6%	3.2%	11.7%	21.7%	58.1%

問4-(6) 成人期以後の学習について、あなたはどのようにお考えですか。次の①から③について、「そう思う」から「全く思わない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	N=3,575				
	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり 思わない	全く 思わない
①成人になつてからの学習が人々にまったく新しい世界を開く。	29.8%	37.5%	22.0%	6.5%	1.0%
②人生を通して学習を継続することで人々はよりよい市民となる。	33.2%	38.0%	19.6%	5.3%	1.0%
③成人になつてからの学習は、仕事や昇進のような役に立つものにつながる場合のみ、行う必要がある。	4.4%	11.2%	26.1%	31.2%	23.9%

問4-(7) あなたは日常の社会生活で、以下に挙げる事柄について、うまく対処できていますか。次の①から⑨について、「そう思う」から「全く思わない」までの5段階のうち、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	N=3,575				
	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり 思わない	全く 思わない
①自分の意見をもち、それを人にうまく伝えることができる。	10.5%	36.0%	27.9%	21.0%	2.4%
②学習を通して獲得した知識や技能を、日常生活において有効に活用している。	11.3%	37.3%	29.1%	17.5%	2.7%
③新たな情報技術を、日常生活において有効に活用している。	7.8%	33.6%	33.3%	18.6%	4.1%
④初対面の相手であっても、コミュニケーションを上手にとることができる。	11.3%	32.6%	29.3%	19.2%	5.3%
⑤他者と協力してものごとに取り組むと、困難な問題でもたいてい解決できる。	9.8%	39.2%	34.9%	11.7%	2.2%
⑥周りの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できる。	4.8%	28.3%	43.4%	17.8%	3.4%
⑦自らの行動や決定を、自身が置かれている立場、自身の行動の影響等を理解したうえで行うことができる。	11.6%	45.5%	29.7%	9.3%	1.7%
⑧自分の人生設計や人生の計画を作りあげ、それを実行することができる。	5.8%	25.1%	39.2%	22.0%	5.6%
⑨ルールを理解し、建設的な議論のうえ、調整したり代案を示したりすることができる。	7.5%	35.8%	34.9%	15.6%	3.8%

5. 寄付・募金活動についてお伺いします

問5-(1) あなたは、この1年間(2012年10月~2013年9月)に現金もしくは現物による寄付をされましたか。寄付先の団体・活動の種類別に、次の①から⑤のそれぞれについてあてはまるものを全てに○印をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

寄付先の団体・活動	N=3,575		
	1. 金額による寄付をした	2. 現物による寄付をした	3. 寄付はしていない
①各層募金 例：加齢層募金・歳末助け合い運動、日本赤十字へ 寄附した募金、生涯学習委員会(おひなびがほくすく)、 テレビ島全県の子(おひなびがほくすく)、 国土緑化推進機構(緑の取組)、コンビニのレジに 貼られたりるる募金箱等	69.2%	2.6%	26.8%
②まちづくりのための活動・環境保全のための活動・安全な生活のための活動・国際協力のための活動 例：通訳や公団の清掃、地元のお祭り、まちの活性化、 リサイクル、ゴミ削減、省エネ、防犯、交通安全、 被災者の募金や救援物資、遠く国支援等	31.7%	18.2%	49.0%
③国や地方公共団体	8.7%	2.3%	84.1%
④宗教団体	11.0%	1.1%	83.2%
⑤その他の団体 例：健康や医療サービスに関係した活動、高齢者・ 障害者を対象とした活動、子ども・教育を対象と した活動、スポーツ・文化・芸術に関する活動等	15.2%	7.4%	74.0%

問5-(2) この1年間(2012年10月~2013年9月)に、どれくらい現金もしくは現物を寄付・募金されましたか。現物によるものは相当額に換算し、1年間の総額として、あてはまる番号を1つだけ選び、○印をつけてください。(○は1つ)

N=3,575	
3. 100円未満	10.2%
4. 100円~1,000円未満	24.7%
5. 1,000円~5,000円未満	24.1%
6. 5,000円~1万円未満	10.5%
7. 1万円~5万円未満	20.0%
8. 5万円~10万円未満	2.0%
9. 10万円以上	1.9%
10. 寄付・募金はしていない	20.0%

無回答=4.4%

6. 許容度についてお伺いします

問6 ①から④のそれぞれについてあなたはどうかと思いますか。認められると思いますか、それとも認められなと思いますか。「1」は「認められたい」を、「10」は「認められたい」を示します。あなたの考え方に近いと思うレベルの数字を1から10の中からそれぞれ1つだけ選び、その数字に○印をつけてください。

① 資格がないのに国の年金や医療給付などを要求する。(○は1つ)	N=3,575 平均 1.9									
1 認められない	2	3	4	5	6	7	8	9	10 認められる	
65.2%	10.7%	7.6%	3.1%	5.4%	1.3%	1.2%	0.5%	0.4%	1.3%	
無回答=3.3%										
② 公共交通機関の料金をごまかす。(○は1つ)	N=3,575 平均 1.3									
1 認められない	2	3	4	5	6	7	8	9	10 認められる	
80.2%	9.3%	3.4%	1.3%	1.3%	0.3%	0.4%	0.2%	0.1%	0.6%	
無回答=3.0%										
③ 脱税する。(○は1つ)	N=3,575 平均 1.3									
1 認められない	2	3	4	5	6	7	8	9	10 認められる	
81.6%	8.2%	3.3%	1.1%	1.4%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%	0.8%	
無回答=2.8%										
④ 仕事に関してワイルドを受け取る。(○は1つ)	N=3,575 平均 1.4									
1 認められない	2	3	4	5	6	7	8	9	10 認められる	
78.3%	9.4%	4.3%	1.3%	1.9%	0.5%	0.3%	0.2%	0.1%	0.7%	
無回答=3.0%										

7. 最後にあなた自身のことについてお伺いします

問7-(1) あなたの性別をお答えください。(○は1つ) N=3,575

45.5% 男性	54.5% 女性
----------	----------

問7-(2) あなたの満年齢をご記入ください。(数字を記入) N=3,575

平均	53.9	歳	
20~29歳	8.5%	50~59歳	17.8%
30~39歳	14.3%	60~69歳	23.4%
40~49歳	17.2%	70歳以上	18.7%

問7-(3) あなたの現在お住まいの地域の郵便番号をご記入ください。(数字を記入) N=3,575

省 略      省 略      省 略

10



問7-(4) あなたの職業をお答えください。(〇は1つ) N=3,575

9.5%	自営業、またはその手伝い	15.0%	臨時・パート勤め人
2.4%	民間企業・団体の経営者、役員	1.7%	学生
22.9%	民間企業・団体の勤め人(正社員)	16.4%	無職
5.5%	民間企業・団体の勤め人(契約社員)	16.6%	専業主婦・主夫 派遣社員)
4.7%	公務員・教員	2.6%	その他( )

無回答=2.5%

問7-(5) 居住形態をお答えください。(〇は1つ) N=3,575

63.7%	持ち家(一戸建て)	5.1%	公営の借家(DK、賃貸住宅(旧公団住宅)、住宅供給公社、県営・市営住宅など)
13.1%	持ち家(集合住宅)	0.9%	借間、下宿
12.3%	民間の借家(一戸建て、集合住宅)	0.3%	住み込み、寄宿舎、独身寮など
1.6%	給与住宅(社宅、公務員住宅)	0.8%	その他( )

無回答=2.2%

問7-(6) 現在の地域(市区町村)での居住年数をご記入ください。(数字を記入) N=3,575

平均	25.4
1年未満	2.3%
1~4年	10.9%
5~9年	10.2%
10~19年	18.5%
20~29年	16.8%
30~39年	16.1%
40~49年	10.9%
50年以上	11.7%

無回答=2.6%

問7-(7) 今後も現在お住まいの地域(市区町村)に住み続けたいですか。(〇は1つ) N=3,575

63.1%	住み続けたい	27.0%	どちらでもない	6.9%	地域外に引っ越したい
-------	--------	-------	---------	------	------------

無回答=3.0%

問7-(8) 同居している人がいますか。①から④についてもお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ、四角に数字を記入) N=3,575

9.7%	1 一人暮らし	88.3%	同居人がいる
------	---------	-------	--------

無回答=2.1%

①同居の親(配偶者の親も含む)	N=3,575	29.8%	いる	平均	1.48	人
		56.9%	いない			
		無回答=13.3%				
②配偶者	N=3,575	69.8%	同居の配偶者あり	平均	1.065	人
		2.0%	別居の配偶者あり			
		22.7%	配偶者はいない			
③その他の同居人(相父母、兄弟、子どもなど)	N=3,575	55.1%	いる	平均	1.81	人
		31.7%	いない			
		無回答=13.1%				
④同居している合計人数(自分を含めずに)	N=3,575	0人	1人	2人	3人	4人
		24.6%	2人	3人	4人	5人以上
		20.5%	3人	4人	5人以上	
		9.2%	4人	5人以上		
		6.7%	5人以上			
		無回答=3.3%				

**全員の方向**

問7-(9) 最終学歴をお答えください。(〇は1つ) N=3,575

10.5%	小・中学校	40.2%	高等学校	11.4%	専修学校・各種学校
10.7%	高専・短期大学	23.6%	大学	2.3%	大学院
				0.7%	その他

無回答=0.6%

問7-(10) 主として、あなたの世帯を経済的に支えている方はどなたですか。(〇は1つ) N=3,575

47.6%	あなたご自身	46.8%	あなた以外のご家族の方	3.9%	その他
-------	--------	-------	-------------	------	-----

無回答=1.7%

問7-(11) 世帯全体の、去年1年間の合計収入(ボーナス・年金・生活保護を含む、税込み)をお答えください。(〇は1つ) N=3,575

9.9%	200万円未満	9.2%	800万円~1,000万円未満
29.4%	200万円~400万円未満	4.1%	1,000万円~1,200万円未満
22.8%	400万円~600万円未満	4.1%	1,200万円以上
13.9%	600万円~800万円未満	5.3%	わからない

無回答=1.3%

本調査や調査票等に関するご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にご記入ください。

記入率 13.1%

ご協力ありがとうございました。